

ウォーターフロントから海洋空間まで、人間が住み・働き・憩う環境をデザインする。

No.
104
海建

カイケン magazine

年報
号

研究室説明会の日程
研究室紹介
博士論文・修士論文・卒業研究
就職状況

目次

平成29年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当	2	研究室紹介(環境保全系)	14
平成29年度 学生受賞	3	教員研究業績・研究室活動業績(空間利用系)	17
学科イベントカレンダー	3	教員研究業績・研究室活動業績(資源・エネルギー開発系)	25
研究室紹介(空間利用系)	4	教員研究業績・研究室活動業績(環境保全系)	28
研究室紹介(資源・エネルギー開発系)	12	就職情報	30

●平成29年度 研究室説明会日程

時間 日・教室	1、2時限			3時限		4時限	
	10:00~ 10:40	10:50~ 11:30	11:40~ 12:20	13:20~ 14:00	14:10~ 14:50	15:00~ 15:40	15:50~ 16:30
4月5日(水) 1441教室	山本 [研究室]	小林(直) [研究室]	桜井 [研究室]	畔柳・菅原 [研究室]	佐藤 [研究室]		
4月6日(木) 1441教室	北嶋 [研究室]	福井 [研究室]	近藤 [研究室]	居駒・恵藤 [研究室]	小林・野志 [研究室]	岡本 [研究室]	大塚 [研究室]

平成29年度 クラス担任

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
学部1年	小林 直明	1345	047-469-8362	kobayashi.naoaki@nihon-u.ac.jp
	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
学部2年	小林 昭男	1335	047-469-5281	kobayashi.akio@nihon-u.ac.jp
	佐藤 信治	1352	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
学部3年	近藤 典夫	1353	047-469-5423	kondo.norio@nihon-u.ac.jp
	野志 保仁	1335	047-469-5281	noshi.yasuhito@nihon-u.ac.jp
学部4年	居駒 知樹	1341	047-469-5482	ikoma.tomoki@nihon-u.ac.jp
	岡本 強一	1365	047-469-5568	okamoto.kyoichi@nihon-u.ac.jp
	恵藤 浩朗	1342	047-469-5730	eto.hiroaki@nihon-u.ac.jp
大学院	北嶋 圭二	1361	047-469-5385	kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp

平成29年度 学科校務担当

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
就職指導	福井 剛	1366	047-469-5527	fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp
	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
学生相談	大塚 文和	1334	047-469-5480	otsuka.fumikazu@nihon-u.ac.jp
留学生担当	畔柳 昭雄	1346	047-469-5424	kuroyanagi.akio@nihon-u.ac.jp

学科
事務室

〒274-8501 千葉県船橋市7-24-1
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室
TEL: 047-469-5420 FAX: 047-467-9446

岡崎 敏美
倉井 朋美
小川マリア・リッチー

okazaki.toshimi@nihon-u.ac.jp
—
ogawa.maria@nihon-u.ac.jp

学生受賞

●優等賞

横田拓也 (小林・野志 研究室)
高橋基喜 (北嶋 研究室)
加瀬佑弥 (北嶋 研究室)
小山大樹 (北嶋 研究室)

●加藤賞

岸田智之：大型石炭貯蔵浮体の波浪中弾性応答特性に関する基礎的研究
三上康光：盤洲干潟における地形変化と植生分布の予測モデルの開発
原田耕成：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の応答性状に関する研究

●海建優等賞

蒔苗嘉人：陸上遡上した建築物に作用する荷重特性に関する基礎的研究
飯塚智哉：言い伝えからみた洪水被害軽減を図るためのリスクコミュニケーションのあり方に関する研究 - 埼玉県に根付く「俗信」を対象として -

●桜建賞

小山大樹・島田佳南・新保拓海・辻 華奈：レンズダンパーを取り付けた RC 造間柱の構造性能に関する実験的研究 - その1 研究目的および実験概要、その2 実験結果および検討 -
村田昌樹：突堤形状を様々変化した場合の沿岸漂砂阻止効果の違い - BG モデルによる検討 -
矢田光輝・坂本真哉：正負繰り返し水平荷重を受ける RC 骨組の挙動に及ぼす鉛直荷重の影響

●海建賞

中本壮祐：三番瀬における放射能汚染について
野川大輔：循環型浄化システムを用いた堆積汚泥に吸着した放射性セシウムの除去 - 最適凝集剤添加量の検討 -
加藤毅三：水上飛行機を活用した新しいウォーターフロント施設群の提案 - 広島県尾道市境が浜マリーナを対象として -
横山侑弥：単一角柱の流力振動における3次元渦構造について
富永柚香：景勝地における消波ブロックの景観調和に関する研究
濱嶋杜人：万緑の聳立 - 高層化された緑による新たな建築空間の提案 -
駒野孝太・水野 翔：標高を考慮した徒歩避難困難地区の抽出に関

する研究

城田大輔：漁業集落における要援護者の高台移転に関する基礎的研究 - 居住地域からの避難距離と津波浸水域境界線との比較検討 -

●桜工賞

中村 充・西村和真：学内弁論大会における優勝実績を称えて
中島麻悠美・島田佳南：オープンキャンパスなど学科広報活動への多大な貢献
大村 奏・木原禎之・村田大地：卒業アルバム編集委員としての貢献

●平成 28 年度理工学部学術講演会優秀発表賞受賞 (口頭発表部門)

後藤翔太：多数回繰り返し曲げせん断を受ける PC 柱の圧着継目耐力に関する実験的研究 - その2 実験結果 -
齋藤純毅：多数回繰り返し載荷を受ける柱梁曲げ強度比が小さい RC 造十字形接合部の部材性能に関する研究 - その2 実験結果 -
三上康光：盤洲干潟における地形変化と植生分布について
野口 翔：河川を遡上する津波からの避難対策に関する研究 - 自治体を対象としてアンケート調査 -

●平成 28 年度理工学部学術講演会優秀発表賞受賞 (ポスター発表部門)

佐々木秀人：移民受け入れによる外人居住者のための居住形態の提案
新井侑子：隅田川流域における堤防整備の変遷に伴う人の活動の変化に関する研究
大槻 愛：東京における金魚養殖業の発展に関する研究 - 東京都江戸川区を対象として -
植松脩人：イベントによる河川空間の利活用に関する研究 - 東京都 17 市区を対象として -
江田拓海：日本十大都市圏における河川区域内の既存不適格建築物に関する調査研究 - 関東大都市圏を対象として -
城田大輔：漁村集落における津波避難を想定した要援護者居住地域の選定に関する調査研究 - 避難可能エリアと津波ハザードマップからの分析 -
加瀬佑弥：氷海域における海洋構造物と氷盤の相互作用に関する研究 - その1 低温実験室における尿素模型海水の作製法と物性試験の概要 -
末武紘一：氷海域における海洋構造物と氷盤の相互作用に関する研究 - その2 尿素模型海水の物性と貫入試験結果 -

学科イベントカレンダー

2017 年

4月7日(金)	新入生歓迎式	8月下旬~9月中旬	海外研修旅行
5月上旬	学科留学生交流会	9月上旬	海洋実習Ⅰ (1年生)
5月13日(土)	新入生学科オリエンテーション	10月3日(水)	理工学部スポーツ大会
7月下旬	「海と建築」ポスター発表 (1年生)	11月2日(木)	桜理祭 (~11月5日(日))
8月中旬	海洋実習Ⅱ (2年生)	12月1日(金)	理工学部学術講演会

2018 年

1月上旬	博士論文公聴会	3月初旬	卒業発表
2月上旬	卒業研究発表会	3月25日(日)	卒業式 (学位記伝達式)
2月下旬	修士論文審査会	-	-

Teaching Staff



教授
畔柳 昭雄



助教
菅原 遼

●研究室紹介

本研究室では、「水と人とのかかわり」を基本テーマとして、水と都市、水と建築、水と空間、水と生活などについて考究することを目的としています。

そのため、「歩く・見る・考える・伝える」を重視し、建築を見て、都市を感じ、水辺や海を知り、地域を理解することからはじめます。また、素養を身に付けるための関連の文献紹介や研究解説などを行い、理解増進や興味・関心を深められるようにし、研究に求められる協調性や積極性、独創性及び思考力を養うためのワークショップも行います。さらに、地域と連携した実際の研究活動や設計活動などを通して、ものづくりに対する多角的な考え方を養い、将来、社会において活躍できる人材の育成を行います。

●卒業研究のテーマ

[人間・活動・環境系]

- ・生活用水の利用と行動・評価に関する研究
- ・アジア諸都市の水資源・水環境に関する研究
- ・水辺の市民開放施策に関する研究

[建築・都市・防災系]

- ・建築が持つ「動的要因」に関する研究
- ・洪水常襲地域における建築と地域対応に関する研究
- ・洪水・津波災害リスク対応と地域政策に関する研究

[デザイン系]

- ・仮設・移動性を考慮した建築物のデザイン
- ・浮体式海洋建築物のデザイン
- ・都市熱緩和のための新たな親水空間のデザイン

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、都市、建築、地域計画に対する思考力や表現力の養成を図ります。具体的には、CAD や Illustrator、Photoshop などの表現技術をわかりやすく丁寧に指導し、同時にデザインビルドをお台場海浜公園や地方の海浜で行います。また、文献紹介や研究解説、学術講演会発表などを通して、卒業論文の執筆に向けた自身の興味・関心事の深化を図ります。

●着手条件

研究室説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください（デザイン系を志望する学生は、設計製図

で制作した作品を必ず持参してください。希望者は、卒業研究着手や就職活動に支障のないように単位を履修していることのほか、2年次までの設計製図の単位を取得済であることを希望します。また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。

●2016年度卒業論文

- 飯塚智哉：言い伝えからみた洪水被害軽減を図るためのリスクコミュニケーションのあり方に関する研究
植松脩人：かわまちづくり支援制度における河川空間の利活用に関する研究
江田拓海：日本10大都市圏における河川区域内の既存不適格建築物の現状に関する研究
楠瀬大志：江戸・東京における染色業と河川との係わりに関する研究
水場信人：隅田川におけるイベントによる河川空間の利活用の変遷とその特徴に関する研究
宮川駿也：海洋建築物に見る機能・用途の変化と周辺海域の利用状況に関する研究

●2016年度修士論文

- 大川薫平：フィリピン・セブシティの貧困密集地区における住居とまちづくりの提案
佐久間大和：海水浴場の環境保全のための協力金導入に関する研究

●2016年度博士論文

- 楊 元園：中国の「海綿都市建設計画」に見る水環境のあり方に関する研究

詳細な活動情報についてはホームページ（左）もしくはFacebook（右）をご覧ください。



Teaching Staff

教授
小林 直明

●研究室紹介

今までの企業において設計活動および技術の開発等を行ってきた経験を最大限に生かし、その内容を皆さんの教育に繋がりたいと思います。

建築工学と比較して海洋建築工学分野自体は建築と土木と、またその他の技術分野の融合が重要である認識しています。さらに建築は現在まで培ってきた技術と異分野の技術の融合させることで更なる発展があると考えます。敷地内での設計となる建築は、周辺のまちづくり、自然の環境等を考慮して設計しますが、今後は、建築自体が異分野の機能と結び付かないと次なる建築の将来は開けないのではと考えます。たとえば、単なる環境装置の設置を超えて周辺の自然と連携する、市街地多種の交通システムと連携を図る、ICT技術とのさらなる融合等が考えられますが、海洋建築であるからこそ敷地に捉われない無限の可能性と異分野の連携のポテンシャルが高いことが認識できます。

新しいものを開発する場合、単独分野の既往の技術に縛られることなく異分野技術との融合を図ることで達成されるケースが多いことから、既往の技術の集積でなく、常にチャレンジ精神で新しい物事に向き合う姿勢が重要であると考えます。それらを研究および実際の設計活動を通して学生に教育することを目指します。海洋建築工学は、それらを教育するのに必要条件を兼ね備えている工学分野であると考えています。一例として現在行なわれている3.11復興において、建築と土木のコミュニケーション不足による被災地住民不在の計画が進んでいる現実も散見されるなか、両分野の融合でもある海洋建築工学分野は、自然災害と共存する将来の国土づくりのリーダーシップを担う使命があると考えます。

また、建築は人の知的生産性（プロダクティビティ）およびアクティビティをコントロールできる力があります。建築空間のあり方、デザインによって人に社会に影響力を与えること、実際に提案と建築設計を行ない社会貢献に繋げることを目標としています。

●卒業設計・研究のテーマ

【建築・海洋建築・まちづくり計画デザイン】

- 1) 建築と土木を融合した海洋建築デザイン・サステナブル海洋建築デザイン
- 2) 知的生産性（プロダクティビティ）を高める建築デザイン
- 3) ユニバーサルデザインと建築デザインの相反性による空間相乗効果
- 4) 3.11復興計画デザイン（津波&放射線）・東

南海トラフ地震による津波被災想定地のまちづくりと建築デザイン

- 5) 歴史的建造物の動態保存（使いながら保存する）と歴史的建造物のサステナブルエネルギー利用
- 6) 既存ストックを利用した建築デザイン

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、建築設計の基本的知識およびデザイン手法の指導と、自分の建築作品を相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上も課題に取り組んでまいります。

●着手条件

建築大好きな学生。デザイン（建築だけに捉われない）大好きな学生。設計製図の授業を受けて楽しいと思った学生がゼミ着手条件となりますので、卒研は卒業設計が必須となります。

●2016年度卒業設計

加藤毅三：水上飛行機を活用した新しいウォーターフロント施設群の提案（卒業設計）



知的生産性を高める建築 横河電機金沢研究所



歴史的建造物の動態保存とサステナブルエネルギー利用の提案 自由学園明日館



東南海トラフ地震の津波被災想定地における普段使いの防災施設提案 (S市役所)

計画分野

空間利用系

ウォーターフロント研究室

1356室

Teaching Staff

教授
桜井 慎一助手
寺口 敬秀

●研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室のモットーにしています。

- (1) 社会人として最も大切なのは時間を守り、有効に時間を使うことです。3年でゼミに入って最初に学ぶのは「**時間の管理**」です。時間を目で見て把握し、主体的に時間を管理し、破綻のないスケジュールを計画・実践する技術を身につけます。
- (2) ゼミ論や卒研のテーマは、今、不満に感じていること、将来、必要になってくることを考え、学生自らが提案します。計画や企画の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「**ニーズを掘り起こす能力**」が必要だからです。
- (3) どんなに優れた研究でも、人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。原稿を見ず、自分の言葉で、誰にでもわかるように、決められた時間の中で、興味を引きつけ飽きさせない「**プレゼンテーション力**」を養います。

●卒業研究およびゼミナールのテーマ

(A) ウォーターフロントの環境創造・環境評価

- ①常時滞水調整池の市民開放に関する研究
- ②ペット専用ビーチの整備と運営に関する研究
- ③水中文化財を対象としたダイビングスポット整備
- ④水辺環境に適合する屋上緑化手法の研究
- ⑤ビーチクラブによる海岸利用・管理の研究

(B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン

- ⑥水辺景観を向上させる保存船舶の展示方策
- ⑦海岸景観に調和する擬岩・擬木の適正利用
- ⑧水辺環境を活かすボードウォークの適正利用
- ⑨水辺景観を引き立たせる防護柵のデザイン
- ⑩消波ブロックの美的配置に関する研究

(C) ウォーターフロントの有効利用と空間整備

- ⑪大型クルーズ客船の寄港地に適する港の選定手法
- ⑫工場夜景や軍港を対象とした観光クルーズ
- ⑬ウォーターフロントの産業観光資源の発掘調査
- ⑭遊休化した地方漁港空間の有効活用方策

(D) ウォーターフロントの減災対策

- ⑮津波避難誘導標識の効果的な設置方策
- ⑯海洋レクリエーションの津波避難対策
- ⑰津波避難タワー・避難シェルターの有効配置の研究
- ⑱津波記念碑の市民認知継承に関する研究
- ⑲船舶を用いた帰宅困難者輸送の研究
- ⑳津波ハザードマップの表記の統一化方策



2016年のゼミ旅行（八海山・魚沼の里）

●ゼミナール活動

前期は、時間管理、情報収集、資格取得、進路就職などに関する座学、三番瀬や都心WFの見学会を実施します。夏季休暇以降、12月までの約半年間をかけて個別テーマによるゼミナール研究論文を作成する。成果は学術講演会で発表し、就職活動にも役立てます。

●2017年度の主な行事予定

①新入室ゼミ生歓迎会（5月）、②三番瀬体験散策会（6月）、③ウォーターフロント見学会（7月）、④夏季研修旅行・広島（8月）、⑤学術講演会での論文発表（12月）、⑥ゼミナール研究論文発表会（12月）、⑦桜井研卒発表会（2月）

●ゼミナールおよび卒業研究の着手条件

説明会参加者の中から個人面談によって決定します。ウォーターフロント計画Ⅰ、Ⅱ、建築法規、海洋政策と関連法規等の科目を履修していることが望ましい。

●2016年度 卒業論文

会沢斗志希：地下公共空間の浸水被害実態と対策
池ヶ谷典宏：海の観光遊覧船による地域活性化
上野耕平：都心水域におけるカヌーの普及促進策
神田英輝：河川を遡上する津波避難のハード対策
野口 翔：河川を遡上する津波避難のソフト対策
塚本寛人：蓄光式避難誘導標識の設置状況と課題
富永柚香：景勝地における消波ブロックの景観調和
中村旭宏：漁港空間の多目的利用を推進する方策
杉崎純哉：橋詰広場の利活用と民間開放への課題

●2016年度 ゼミ論文

市川智裕：大規模災害時における宿泊施設の開放策
唐崎雄亮：鉄道路線が津波避難行動に及ぼす影響
國井 樹：水上飛行艇発着に適する海面の適地選定
倉田直樹：津波避難ビルの建築を誘導する条例制度
小林駿邦：漁港の有効利用を促進する政策の変遷
関口潤耶：水中ライトアップ整備事例の現状と課題
豊田秀樹：津波避難シェルターの普及の現状と課題
西村有人：城郭水堀の保存整備と有効利用
丸山敬之：大型クルーズ船の接岸に適する物流港湾
八木淳之介：イベントが運河の保存整備に及ぼす影響
安野 陸：海辺の公園における美観維持方策
若山恵大：領海 EEZ 保全に資する離島の維持管理

Teaching Staff

専任講師
佐藤 信治

●研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい！という学生・院生で構成されています。まずは建築が好き！であることが大切です。建築の設計はある意味では大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒にワイワイ・ガヤガヤと学びたいと思います。

また建築をデザイン・設計する前段階としては建築を計画するというのも重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで（含、施工）の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、大学院、デザイン事務所やゼネコン設計部への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年 100%を維持しています。

●卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計〉と〈計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計テーマと計画テーマとに分かれて実施しますが、その過程では、今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

〈設計テーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン

- ・3Dプリンターによる自動建築システムの構築

〈計画テーマ〉

- ・水族館に関する建築計画の研究
- ・水環境下における建築の空間デザインの研究
- ・社の空間解析に関する研究

〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して東北各地の地方自治体と「まちづくりワークショップ」(写真1)を開催しています。昨年は、あきた芸術村とコラボレーションしました。

また、2011年度より中国北京の中国建築科学研究院と共同で海外インターンシップを開催しており、中国国内の設計コンペ(写真2)に応募するなど国際交流が進められています。

●ゼミナールのテーマ

設計・計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行い、学期末にその成果の発表会を実施します。

●着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。計画・研究の希望者は必要ありません。

●2016年度卒業設計

高橋 翔：新宿群中街-新宿ゴールデン街更新計画-、毎日DAS学生デザイン賞2016卒業設計展 日本一(建築部門賞)獲得(写真4)

●2016年度修士設計

山影悠時：干潟の機能を取り入れた浮体式浄化施設の設計(写真3)

写真1



写真2

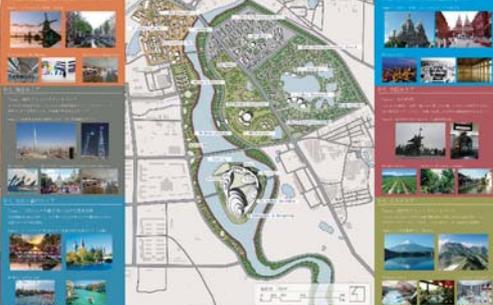


写真3



写真4



Teaching Staff

専任講師
山本 和清

●研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT（On the Job Training）に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「アクセスディンギー」という誰もが（小さい子供から高齢者・障がい者までも含む）海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。



写真1 「たてやま海まちフェスタ」アクセスディンギー体験乗船風景



写真2 「船橋港まつり」アクセスディンギー体験乗船風景

「たてやま海まちフェスタ」（千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置づけた南房総地区における大々的なイベント）、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」（毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント）、「船橋港まつり」（毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業が中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり）では、それぞれの会場の海域を使用してアクセスディンギーの体験乗船会を実施し（写真1,2）、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。この様な活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・障がい者にも優しいまちづくりについて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

●卒業研究のテーマ

【地域・都市活性化計画系】

- 1) みなと町活性化方策と“環境・観光・学習”港湾計画
- 2) 防災船着場の有効活用を目指した手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

【福祉のまちづくり計画系】

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

【海洋プロジェクト系】

- 1) 海の情報戦略と港湾空間における“Regeneration（再生・復興・復活・改革）”
- 2) Something New Project

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や就職対策としての面接指導、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

●着手条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。

●2016年度 卒業論文

- 本多幸輝：災害時における拠点マリーナの支援可能性に関する基礎的研究
西野太郎：高齢者福祉施設のBCP策定に関する基礎的研究
池田健悟：水産多面的機能発揮事業における漁業者の取り組みに関する研究
城田大輔：漁村集落における要援護者の高台移転に関する基礎的研究
野崎健人：南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域における自治体と漁業協同組合との地域防災協定に関する研究
村上 研：東日本大震災を教訓とした防災教育実施内容の変化に関する調査研究
狩野悠介：防災拠点としての「みなとオアシス」のあり方に関する調査研究

Teaching Staff

教授
北嶋 圭二特任教授
中西 三和

● 研究室紹介

構造力学、構造設計、建築防災に関連する下記に示す研究が主要テーマであり、上記スタッフの指導を受けることができる。

1. 鉄筋コンクリート (RC) 造建物の耐震性能に関する研究

- ・ 損傷低減のための耐震設計法並びに補強技術の開発
- ・ 衝撃荷重を受ける RC 部材の挙動に関する研究
- ・ 超高層 RC 造建物の柱梁接合部の構造性能に関する研究
- ・ 海外の RC 造建物の耐震規定に関する調査・研究

2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- ・ 次世代制震構造システムに関する研究・開発
- ・ 滑り基礎構造システムに関する研究
- ・ 折返しブレースを用いた構造システムに関する研究
- ・ 制震構造建物の性能評価・表示法に関する研究
- ・ 間柱型レンズダンパーの研究・開発
- ・ 高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究

3. 海洋建築物の構造設計法に関する研究

- ・ 津波漂流物の衝突に関わる研究
- ・ 氷海構造物の氷荷重評価と応答性状に関する研究
- ・ 海洋建築物設計指針策定に関わる調査・研究

4. その他、企業からの委託研究など

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターのテストフロアや2方向振動台、環境・防災都市共同研究センターの最新設備を用いた建築構造システム並びに建築構造部材の性能に関する実験的研究が多いこと。また、建築物の弾塑性地震応答解析などコンピューターシミュレーション技術を用いた解析的研究が多いことである。テクノブレース 15 に設置されている低温実験室の模型氷海水槽を用いた実験等も行っている。建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか、幅広い分野を対象に研究を行っている。

● 卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定する。

● ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験
前期は基礎的な力学の勉強会を行う。また、海洋構造物や陸上の建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるための小型模型実験を行う。実験は学部祭にて公開する。

● 着手条件

特になし。

● 2016 年度 卒業論文

加瀬佑弥・高橋基喜：氷海域における海洋構造物に作用する氷荷重に関する実験的研究

菅 智輝・島田拓実：セメント材料の破面形状と力学的特性の関係性に関する実験的研究（その1 実験概要／その2 破面解析結果）

小山大樹・島田佳南・新保拓海・辻華奈：レンズダンパーを取り付けた RC 造間柱の構造性能に関する実験的研究（その1 研究目的および実験概要／その2 実験結果および検討）

櫻庭幹己・関口聖也・望月彩芳：剛性偏心させた滑り基礎建物の加振実験（その1 実験概要／その2 実験結果）

田邊 匠・山本圭太：長尺折返しブレースの構造特性に関する研究（その1 V 型配置時と片掛け配置時の基本性能の検討／その2 V 型配置時と片掛け配置時の構造特性の比較検討）

大家英剛・谷口直央貴：フィリピン・セブ島の RC 校舎の耐震性能評価に関する研究（その1 日本の耐震設計基準による評価／その2 フィリピンの耐震設計基準による評価と日本との比較）

● 2016 年度 修士論文

齋藤純毅：多数回繰返し荷重を受ける柱梁曲げ強度比の小さい RC 造十字形接合部の構造性能に関する実験的研究

齋藤大樹：あと施工せん断補強筋を用いた RC 造梁のせん断補強効果に関する研究

原田耕成：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の応答性状に関する研究



大型構造物試験センターで実施した PC ハニカム構造の実験



低温実験室における氷海構造物の実験

Teaching Staff

教授
近藤 典夫

●研究室紹介

当研究室は、大スパン構造物や海洋構造物の周辺あるいは都市空間において流体（風、海流、波など）がどのように流れていくのか、そして構造物および人間にどのような影響を与えているのかなどを、コンピュータ・シミュレーションの手法を使って研究活動をしています。研究範囲は地上・海洋空間を問わず、あらゆる空間および興味あるものなら何もかも研究対象に加えていきます。

研究室の活動は、夏合宿、ゼミナール・卒業研究発表会、懇親会などを行い、楽しい一年間を過ごします。



ゼミ・卒研発表会の風景（軽井沢研修所）

●卒業研究のテーマ

卒業研究テーマは以下の通りです。他に希望するテーマでも卒業研究を行うことができます。

[1] 流体運動

- 1) 構造物まわりの気流の数値的研究
- 2) 構造物の内部を流れる気流の数値的研究
- 3) 乱流の数値的研究
- 4) 大型海洋構造物まわりの海流と波の数値的研究
- 5) 大型貯蔵タンク内のスロッシングの数値的研究
- 6) 都市のヒートアイランドの数値的研究
- 7) 津波の遡上に関する数値的研究

[2] 構造物の不安定振動

- 1) 風力を受けた構造物の渦励振の数値的研究
- 2) 海洋構造物の渦励振の数値的研究
- 3) 大型浮体構造物の波浪応答に関する数値的研究

[3] シェル構造解析

- 1) シェル構造物の動的・静的解析
- 2) シェル・空間構造物の減衰特性

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールは卒業研究のための基礎的な事項についての学習

とその応用演習を行い、研究に必要な知識を習得します。内容としては以下の事を予定しています。

- 1) 数値流体力学と弾性力学の全般的な基礎学習
- 2) 有限要素法
- 3) コンピュータ・シミュレーションの仕方
- 4) フォートラン・プログラミング
- 5) 画像処理の方法（アニメーションの作り方）

●着手条件

特に設けていませんが、説明会には必ず出席して下さい。やる気のある学生、大いに歓迎です。

●2016年度 卒業論文

青木優馬：くい違い配置2角柱の流力振動に関する3次元数値解析 -くい違い角度 60°-

乙武遼成：くい違い配置2円柱の流力振動に関する3次元数値解析 -くい違い角度 30°-

小林祐大：正弦波による円筒形タンクのスロッシング応答解析

呉翹 楚：並列2円柱の流力振動に関する数値解析

志賀祐哉：円柱の流体振動に関する3次元数値解析

島 優太：直列2角柱の流力振動における3次元渦構造について

鈴木 健：くい違い配置2角柱の流力振動に関する数値解析 -くい違い角度 30°-

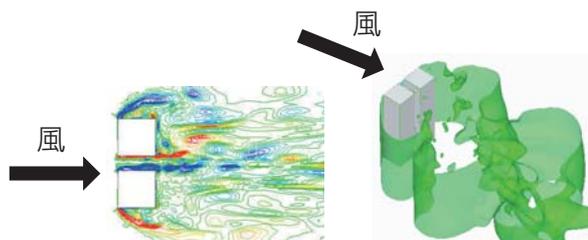
高城翔生：並列2角柱の流力振動解析

根本 大：くい違い配置2円柱の流力振動に関する3次元数値解析 -くい違い角度 60°-

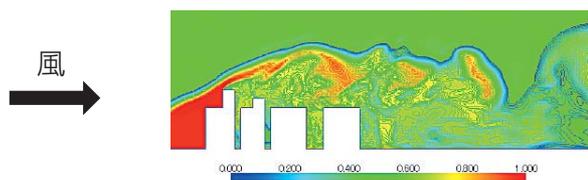
冷牟田翼：直列2円柱の流力振動に関する三次元数値解析

横山侑弥：単一角柱の流力振動における3次元渦構造について

中山拓哉：長方形角柱のギャロッピング振動解析



卒業研究より：並列2正方形角柱まわりの流れ（渦度、圧力等値面）



卒業研究より：建物群まわりの温度分布（地面が太陽光で温められている。赤色：温度が高い領域、青色：温度が低い領域）

Teaching Staff

准教授
福井 剛

●研究室紹介

研究のこと：私たちの研究室では、①ひび割れが生じないために沿岸域の建物に用いても耐久性が極めて高く、②30mを超える大スパン構造を作ることができるためにデザイン性に優れた建物を作ることができる。プレストレストコンクリート（以下PC）構造を対象に、その力学的性状の解明と設計法の確立を目指して研究を進めています。PC構造は、東京スカイツリーの心柱に使われ、ザハ案の国立競技場のアーチタイにも使われる予定であった技術です。実用事例は他にもたくさんありますがここでは割愛。私たちの研究室での合言葉は、「世の中に直接役立つ研究をする！」です。これをもうちょっと具体的にいうと、「その成果が設計や開発および研究の場で広く用いられるような研究をする！」ということです。そして、そのためには、独創性が高いだけでなく構造設計者、研究者が使ってみたくするようなシンプルで信頼性の高い研究成果を生み出す必要があります。

研究室の雰囲気：私たちは、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠であり、研究室では教員とゼミ生、卒研生、院生がお互いにフランクに話し合えるような場にしたいと考えています。ただし、やるときは真剣勝負ですヨ。

●年間行事

①顔合わせ会：所属が決まったゼミ生が卒研生、院生、教員と親睦を深めるために5月初旬に実施。②夏合宿研究発表会：卒研生、院生が行っている研究の経過を発表するために厳格な雰囲気のなか9月初旬に実施。発表終了後は普段通りの無礼講タイム。③実験打上げ：実験終了時に無事故と研究成果を祝うための行事。④随時：めでたいことなどがあれば適宜。

●今期予定の卒業研究テーマ

- 1) 長期荷重がPC造骨組の地震後の性能に及ぼす影響
- 2) 鉄筋コンクリート部材とPC部材のせん断終局強度の統一的评价手法
- 3) PC有孔梁の合理的な設計法の開発
- 4) PC造柱梁接合部の応力伝達モデルの開発
- 5) プレキャストPC圧着継目の滑り破壊耐力に対する設計法の提案

上記の卒業研究の内、1)は実験を主体としており、フィールドワークが好きな人に向いています。2)～5)は解析が主となるので、コンピュータ好きの人に向いていると思います。ただ、ゼミに入って色々やっているうちに解析大好き人間に変

身するケースも稀ではないので、君たちは自分自身にあまり先入観を持たないほうがいいのかもしれませんが、研究テーマ名だけではワクワク感がないかも知れませんが、君たちが、真剣にこれらのテーマに取り組むとはまります。



実験風景

●ゼミナールのテーマ

- 1) マトリクス法による任意形骨組の解析ソフトの開発
- 2) 一級建築士に出題されている構造系科目を解く
- 3) 卒業研究時に必要なコンピュータスキル（CAD、エクセル、パワーポイント）の修得

テーマ1)、2)は、それぞれ週1回私たち教員が担当し、テーマ3)は週2回大学院生が担当しています。ゼミ生にはこれらのテーマから2つ以上を選択してもらいます。3年次には受講しなければならない大切な専門科目が目一杯あるので、そちらにも十分な時間が割けるよう配慮しています。

●着手条件

特に設けていません。構造力学、応用力学の知識はゼロであることを前提とした指導を行いたいと考えています。（2年修了時点で構造力学をちゃんと理解している学生には別途対応します。）私たちの研究室では、成績最悪の学生がゼミや卒研をやっているうちに研究に目覚め大変身を遂げた例が結構ありました。私たちとしては、君たちにもぜひそうなってほしいのです。

●2016年度卒業論文

- 梅澤拓哉・石井誠士・熊谷航平・下山慧修：PC梁の地震時における力学的挙動に及ぼす長期荷重の影響に関する実験的研究
- 金澤綺華・大橋亜美・川口藍：PC部材のせん断終局強度に関する研究
- 近藤 圭・齋藤貴也：アーチ機構におけるせん断伝達機構に関する研究
- 後藤雄大・目片幸輝：円形開口を有するPC梁の設計法に対する検討
- 斉藤修平・高橋弘樹：PCaPC柱圧着継目せん断耐力に関する研究
- 柴崎弘安・土屋博紀：PC造ト型柱梁接合部の終局強度に関するマクロモデル
- 矢田光輝・坂本真哉：正負繰り返し水平荷重を受けるRC骨組の挙動に及ぼす鉛直荷重の影響

●2016年度修士論文

- 後藤翔太：PCaPC柱圧着継目のずれせん断耐力に関する設計手法の提案
- 畢 成：PC梁の地震時における力学的挙動に及ぼす鉛直荷重の影響に関する実験的研究

資源・
エネルギー
開発系

海洋空間利用工学研究室

Teaching Staff

教授
居駒 知樹准教授
恵藤 浩朗特任教授
増田 光一

●研究室紹介

当研究室は海洋建築物、海洋構造物の計画・設計に必要な工学技術と性能の評価方法を開発するといった研究活動を行っています。海洋建築物や海洋構造物の種類は多岐にわたり、一見機械的装置である海洋エネルギー利用構造物から船舶、海上医療関連施設まで様々であり、海洋波中での安全性の確保や実現可能性を高めることが当研究室の目標となります。

浮体式構造物も着床式構造物も海洋波である波浪や津波の影響を受けるため、設計にそれらを考慮する必要があります。その評価には波や流れなどの流体の影響による揺れや振動といった課題から応力集中や疲労といった構造設計上の課題まで様々です。また、近年では津波に対する沿岸域の防災意識の高まりにより、港湾内に係留される船舶の被災予測からそれによる陸側への被害拡大とその回避についても解決すべき課題となっています。海洋空間を利用した新たな社会を構築するために必要な建築物や構造物の提案を行い、海域あるいはその影響を直接受ける場所に建造されるそれらの実現に必要な設計関連技術全てが当研究室の研究テーマです。幅広い課題解決を目標としていますが、次のような研究領域が基本となります。

1) 海洋建築物のニューコンセプトの提案

- 2) 海洋波と構造物の相互影響と運動応答性能評価
 - 3) 海洋波中の構造物の構造安全性の確保とその評価
 - 4) 海洋再生可能エネルギーと海洋資源の有効利用のための技術開発
 - 5) 海からの脅威に対する防災・減災対策の確立
- これらの応用として次に示す各種海洋建築物の性能評価および構造評価を目的とした研究を行っています。

●卒業研究のテーマ

研究室紹介に記載した研究テーマや、それぞれのテーマにまたがった横断的な研究テーマも含め、各自の意向に基づいて卒業研究を選択して卒業研究を実施する。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは卒業研究を実施する上で必要となる基礎的なスキルを身につけるための学習を実施し、研究に必要な知識の修得を目指します。具体的には週1回の講義や演習形式のゼミナールがメインの活動となり各種理論や計算方法を一から学びます。また実際にテクノプレース 15 に設置されている大型水



夏合宿（居駒先生はバンクーバーへ出張中）



石炭貯蔵・払出浮体基地の提案



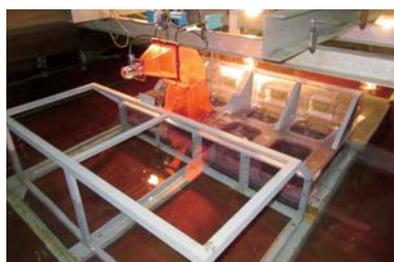
災害時医療支援浮体の提案



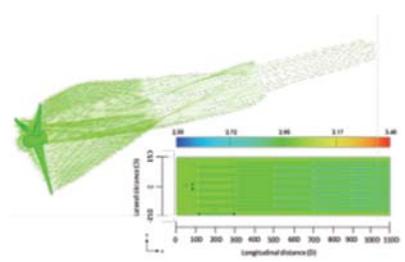
ブラジル北東部における SEP 式抛点港の提案



垂直軸型可変ピッチ翼水車の実海域実験



水柱振動型波力発電装置の水槽実験



複数配置した潮流発電装置の数値シミュレーション

槽などを利用して海洋建築物・構造物の動揺問題や津波防災、海洋エネルギー開発の現場を、実験を通して体験しながら学びます。

●着手条件

特に条件は求めないが、「海洋建築」への情熱や気力、体力のある学生、また大学院への進学希望者を歓迎します。巨大津波に対する備えとして防災や減災、避難に関する研究や更なる海洋再生可能エネルギーの利用や開発、新しいコンセプトとして提案される浮体式建築物の構造計画や構造設計など「海洋建築」に興味がある学生は是非、研究室へ相談に来て下さい。

●2016年度 卒業論文

- 白石勇氣：海中に一点係留される海流発電水車の安定状態に関する基礎的研究
- 林 周平：河川に設置した災害時医療支援浮体の運用方法に関する基礎的研究
- 宮本利治：PW-OWC型波力発電装置のPWにおける圧力分布に関する研究
- 上野久史聡・野田慎也：大型石炭貯蔵浮体の静的変形性状と部材の局部応力に関する基礎的研究
- 大村 奏：運動量理論を用いた垂直軸型可変ピッチ翼水車の性能評価に関する研究
- 木原禎之：浮体式振動水柱型波力発電装置の空気室体積変化による一次変換性能についての基礎的研究
- 黄潔：浮体式垂直軸型可変ピッチ翼水車の実海域で性能に関する基礎的研究
- 古川 翔：段波津波による岸壁上のコンテナの漂流挙動に関する実験的研究
- 佐々木信悟・張靖坤：大型石炭貯蔵浮体の振動特性に関する基礎的研究
- 敷田 曜：大型石炭貯蔵浮体の長周期変動波漂流力による動揺特性に関する研究
- 杉山佑介：MPS法を用いた波力解析に関する研究

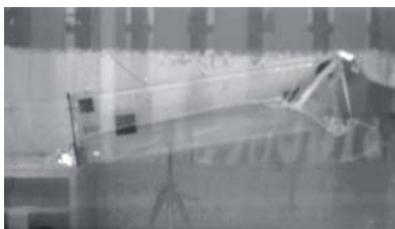
- 武山陽樹：ブラジル北東部におけるジャッキアップ式拠点港の安定性に関する基礎的研究
- 土井優樹：清水港における作業船の津波被害評価に関する基礎的研究
- 中村 允：着床式垂直軸型洋上風車の振動特性に関する研究
- 西森拓哉・楊未未：二重有孔ケーソンを利用したOWC型波力発電装置の空気室体積が一次変換性能に与える影響に関する実験的研究
- 畠山貴行：防波堤の破堤状態の変化に伴う浸水被害に関する研究
- 蒔苗嘉人：陸上遊上した建築物に作用する荷重特性に関する基礎的研究
- 松岡聖也：海洋再生可能エネルギーによる水素生産・貯蔵システムのコンセプトと経済性に関する基礎的研究
- 村田大地：MPS法および有限要素法を用いた流体-構造体解析手法の開発に関する基礎的研究
- 和田悟史：清水港港湾計画実施に伴う港湾津波ハザードマップに関する基礎的研究

●2016年度 修士論文

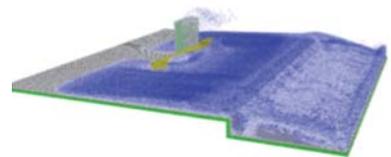
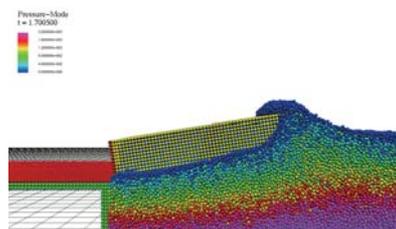
- 小口篤大：実海域曳航試験データに基づく浮体式垂直軸型可変ピッチ翼水車の性能に関する研究
- 岸田智之：大型石炭貯蔵浮体の波浪中弾性応答特性に関する基礎的研究
- 中島麻悠美：大型石炭貯蔵浮体システムの運動応答特性と荷役稼働率に関する基礎的研究
- 山本 卓：ムーンプールを有する浮体式垂直軸型洋上風車の動揺特性に関する基礎的研究

●2016年度 博士論文

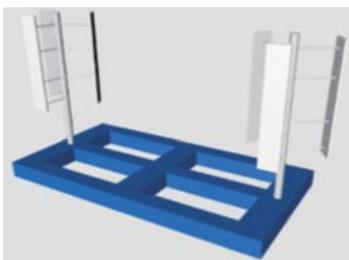
- 村田一城：MPS法による津波中の浮体挙動および衝突力の推定に関する研究
- 渡邊由香：潮流発電装置群周辺流場の実用モデルを用いた数値解析法に関する研究



粒子法による浮体乗り上げシミュレーションと実験の比較



津波による建築物と浮体の衝突シミュレーション



浮体式垂直軸型洋上風車モデル



建築物に作用する津波衝撃波圧に関する実験



津波による建築物間の縮流現象に関する実験

Teaching Staff

准教授
大塚 文和

●研究室紹介

沿岸域における干潟や浅場は、埋立などにより小規模となり、埋立地の間に離ればなれになって存在しています。しかし、そこに棲む生物たちは、海の特徴をうまく利用し、ネットワークをつくって生存を図っていると考えられていますが、よく分かっていません。そこで、私たちの研究室では、東京湾を対象に、環境保全や生物・生態系の保全に役立てるため、生物たちのネットワークを海洋調査やコンピュータシミュレーションなどにより解明する研究をしています。

また、約6年前に発生した福島原子力発電所の事故により放出された放射性物質は、今でも定期的に東京湾に流入していることが確認されています。しかし、これまでに東京湾に流入した放射性物質がどのように堆積しているかは、よく分かっていません。そこで、東京湾を利用する人たちの安全・安心に役立てるため、東京湾における放射性物質の実態把握とその変化予測に取り組んでいます。



研究室合宿（軽井沢にて）

●卒業研究のテーマ

卒業研究の主なテーマは、次のとおりです。実際に干潟や海上で観測を行い、パソコンで観測データの解析、再現シミュレーションや予測シミュレーションなどを実施して研究を進めていきます。

1. 生態系（アサリ）ネットワークの解明

- ①アサリ幼生の遊泳行動のモデル化と再現性評価
- ②アサリ幼生の浮遊シミュレーションによる移動経路の解明
- ③アサリ幼生の浮遊シミュレーションによる生息場間のネットワークの解析・評価

2. 放射性物質の実態解析と拡散予測

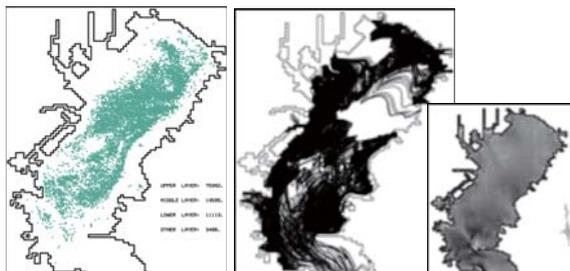
- ①三番瀬における放射線量の実態調査・解析
- ②葛西臨海公園海浜における放射線量の実態調査・解析
- ③真間川河口前面海域における放射性物質の堆積状況の調査・解析



アサリわくわく調査



放射線量調査



アサリ幼生の浮遊と流況の数値シミュレーション

- ④東京港内における放射性物質の堆積状況の調査・解析
- ⑤東京湾内湾における放射性物質の堆積状況の調査・解析

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、「海洋環境を知る」をテーマに、実際に卒業生たちと共にいろいろな計測を行います。

また、東京湾の湾口近くの館山湾で1泊してマダイやシーバス釣りなども楽しめます。



高速ボートを使って東京湾の環境調査



●着手条件

特に設けていませんが、研究室説明会に出席し、個別面談を受けて下さい。やる気のある人を期待します。また、海が好きな人、あるいは“環境”に興味のある人、釣りが好きな人も、歓迎です。

●2016年度 卒業論文

中本壮祐：三番瀬における放射能汚染について

橋本宗侍：葛西臨海公園西なぎさ海浜における放射線量について

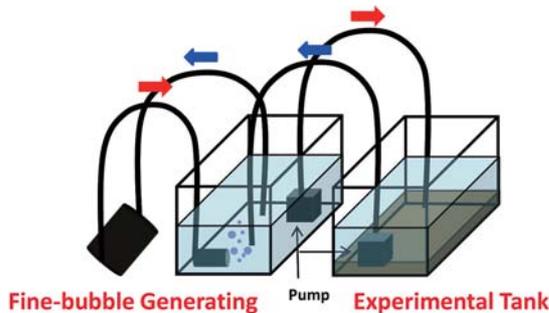
Teaching Staff

准教授
岡本 強一

● 研究室紹介

本研究室は環境工学に関する調査研究と技術開発を行っています。研究は主に「環境再生」をめざし、生態システムの再生、整備に関する実証実験、環境シミュレーション、モニタリング調査を通じ、沿岸域・海域における豊かで快適な居住環境の実現のための技術開発と研究を行っています。

特に、生物生息環境の改善・修復・創出をするためには、環境工学技術によって人間活動の影響をなくすのではなく、生態系と共生することが重要であり、人間や生態系をシステム全体として取り扱おうとする「生態システム工学」を念頭に、海の「環境再生」を目標にします。また最近、海の除染と称して、堆積汚泥に吸着した放射性セシウムの除去について研究しています。

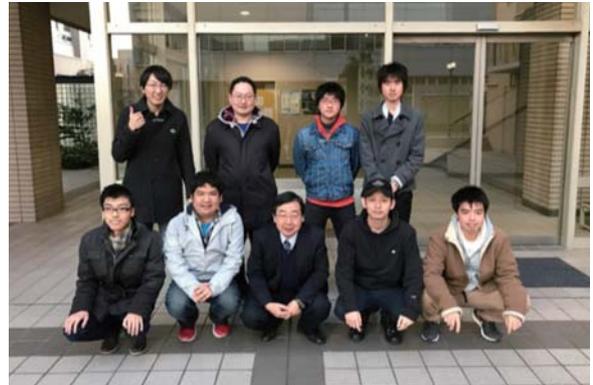


循環型浄化システム

● 卒業研究のテーマ

1. 「実験的手法による環境再生（水質浄化）」

- ・ファインバブルと微生物による水質浄化（循環型浄化システムを用いた水質浄化）
- ・沿岸域の堆積汚泥の浄化
- ・凝集剤を用いた水質浄化
- ・電気分解の原理を用いた水質浄化システム（東京大学生産技術研究所・北澤先生と共同研究）



研究室メンバーと一緒に

2. 「海の除染：堆積汚泥に吸着したセシウムの除去」

- ・循環型浄化システムを用いたセシウム除去（理工学部物質応用化学科・遠山先生と共同研究）
- ・ウルトラファインバブルと微生物による場合（生産工学部環境安全工学科・小森谷先生と共同研究）

3. 「環境再生のための環境モニタリング」

- ・海洋環境モニタリングシステムの開発
- その他、学生からの新しいテーマの提案も大歓迎です。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールは、勉強会による基礎知識の習得を通して、具体的な卒業研究のテーマの選定を行います。

最終的にゼミ論をまとめてもらいますが、失敗を恐れず、挑戦的なテーマで実験を主体に行っています。これを通して現象の理解を深め、かつ、測定方法の習得をしています。これは、皆さんの技術力となります。また、以下が最近のゼミ実験です。

- ・実海域での堆積汚泥の浄化システム
- ・循環型浄化システムにおける酵素の配合比率
- ・微生物と凝集剤を用いた新しい浄化システム
- ・微生物（ユーグレナ）直接投入した場合の浄化性能など。

なお、ゼミの出席は重視しています。

●着手条件

研究室説明会に出席して、必ず個人面談を受けて下さい。やる気のある人を優先します。特に、オン、オフのできる人を求めています

●2016年度卒業論文

- 野川大輔：循環型浄化システムを用いた堆積汚泥に吸着した放射性セシウムの除去 最適凝集剤添加量の検討
- 大下麟太郎：循環型浄化システムを用いた微生物直接投入による浄化効果 浄化過程における微生物量の変化
- 柳下佑輝：ウルトラファインバブルの親和性を利用した循環型浄化システムによる堆積汚泥の浄化性能
- 川邊謙介：炭電極を用いた電気分解による水質浄化実験 交番電圧による複数電極の場合の浄化性能

●最優秀論文賞（Best Paper Award）受賞（2016年11月国際会議 GEOMATE にて岡本の発表論文）

Teaching Staff

教授
小林 昭男助教
野志 保仁

●研究室紹介

本研究室の海洋建築工学科における位置付けは、「海洋環境工学系の研究室」です。海洋建築物に必要な良質な海洋空間の整備・創造や海洋空間の高度な利用方法に関わる技術を総合的に研究し、成果を実際のプロジェクトに反映できるように整備しています。さらに、(財)土木研究センターから客員教授を招聘し、企業からも上席客員研究員を招聘して、研究のレベル向上にも努めています。



現地調査の様子（ベトナム）

●卒業研究のテーマ

卒業研究の主題は次の通りです。春に現地踏査を行い、これらの主題に沿った海浜を対象にして研究を行います。研究の成果は、必ず社会全体に役立ちます。

1. 良質な海洋建築空間の整備・創造

- 1) 海岸侵食の現況調査と原因究明および対策立案
- 2) 侵食された海浜の新しい修復技術の開発

2. 良好な海洋空間の利用方法

- 1) 海浜の過度な土地利用の弊害
- 2) 侵食対策によって創造された海浜の変遷

●ゼミナールのテーマ

就活・進学に役立つ建築や海洋の基礎を復習します。

- 1) 科学技術英語の基礎を学びます
- 2) 研究に役立つ参考書を共に学びます
- 3) 既往研究の解説を聞いて研究の方法を学びます
- 4) データの分析方法やレポートの書き方を学びます
- 5) 興味があれば模型実験や数値計算法も学びます
- 6) 海岸の状況を体験的に学ぶ踏査や調査にも参加できます
- 7) 海岸保全施設の機能が理解できるようになります
- 8) 研究室員全員で行う千葉県沿岸での合宿で、現地調査の



海岸環境の修復活動（福岡県水島）



ゼミ生歓迎会の様子

方法、海岸の環境問題を学びます

- 9) 懇親の場で先輩たちと楽しく食べて飲んで学ぶ場も提供しています

●着手条件

2017年度の卒研生・ゼミ生は、私たちの研究を推進させる人材になると期待しています。海岸地形や海浜環境の再生・修復に興味のある学生なら、だれでもゼミナールや卒研に着手できます。

●2016年度 卒業論文

池田 航：瀬戸浜海水浴場における越波の数値シミュレーション
上 蘭 優：ダム堆砂の養浜材としての活用に関する研究
篠原麻葉：鶴原海岸における緩傾斜護岸の利用と砂浜の侵食に関する研究

田中恭平：過去事例からみた災害対策・軽減に関する研究

長塚敏浩：離岸流の予測予報による水難事故の低下

西村亜子：人工干潟の地形安定化と生物生息空間の創出

西村和真：埋立護岸背後での越波増大と背後地盤の陥没

原 大輔：串浜海岸における海浜変形

藤野由基：流入小河川の河口が岩礁背後に固定される理由

舟喜啓人：船橋三番瀬海浜公園における干潟の地形変動

松尾大歩・本木遥亮：那古船形海岸における突堤の汀線への影響

宮田隆平：緩傾斜堤の機能回復を目的とした礫養浜に関する研究

村田昌樹：突堤形状を変えた場合の沿岸漂砂阻止効果の違い

横田拓也：セルオートマトン法を用いた海岸砂丘におけるblowoutの再現・予測モデルの開発

横山 岳：白渚海岸の季節変動と侵食に関する研究

和田夏海：波左間海岸における海岸土地利用による環境変化に関する研究

●2016年度 修士論文

三上康光：盤州干潟における地形変化と植生分布の予測モデルの開発

教員研究業績
研究室活動業績

畔柳・菅原研究室

審査付論文

- ◆ Yuanyuan Yang・Akio Kuroyanagi・Ryo Sugahara: Prestudy on River Environmental Improvement Based on Human Water Harmony-PEST Analysis of Flood Control Situation in Mainland China-, Journal of Environmental Information Science Vol.55 No.5 pp.39-44, 2016.3.
 - ◆ 菅原遼・畔柳昭雄: 水辺の社会実験から見た河川区域の空間利用と地域連携に関する研究-空間構成と事業スキームに着目して-, 日本建築学会計画系論文集 第81巻 第722号 pp.971-981, 2016.4.
 - ◆ Ryo Sugahara・Akio Kuroyanagi: Research on the Trend toward Public Access to Canals in the Tokyo Waterfront Area, Proceedings of the ASME 2016 35th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering OMAE2016, OMAE2016-54393, 2016.6.
 - ◆ 畔柳昭雄・菅原遼: 近世から現代に見られる“牡蠣船”の機能的形態変化に関する調査研究、沿岸域学会誌 Vol.29 No.1 pp.15-26, 2016.6.
 - ◆ 菅原遼・大野真由美・畔柳昭雄: 日本の海事博物館の現状とその特徴に関する基礎的研究、沿岸域学会誌 Vol.29 No.1 pp.39-46, 2016.6.
 - ◆ 佐久間大和・菅原遼・畔柳昭雄・桜井慎一: 海水浴場の環境保全に対する経済的価値に関する研究、沿岸域学会誌 Vol.29 No.2 pp.59-68, 2016.9.
 - ◆ 横田憲寛・青木秀史・畔柳昭雄: 水害常襲地域における建築的防災対策に見る地域特性に関する研究-利根川・荒川・大井川及び信濃川・揖斐川・淀川を対象として-, 日本建築学会計画系論文集 第81巻 第727号 pp.1929-1937, 2016.9
 - ◆ 田中雄基・畔柳昭雄・菅原遼: 新規整備された津波避難ビルに見る空間構成と避難機能の位相関係-地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設設計的研究 その2-, 日本建築学会計画系論文集 第81巻 第728号 pp.2309-2316, 2016.10.
 - ◆ 小海諄・畔柳昭雄・菅原遼: 横浜市和泉川における市民団体と行政の係わり合いの実態と課題、環境情報科学学術研究論文集 30 pp.173-176, 2016.11.
 - ◆ 楊元園・菅原遼・畔柳昭雄・小海諄: 中国における自然・生態系に配慮した川づくりに関する報告、ランドスケープ研究(オンライン論文集) Vol.9 pp.126-129, 2016.11.
 - ◆ 飯塚智哉・横田憲寛・畔柳昭雄・菅原遼: 洪水常襲地域における水防災事業と洪水が住環境に与える影響に関する研究-三重県紀宝町を対象として-, 日本建築学会計画系論文集 第81巻 第730号 pp.2683-2691, 2016.12.
- 口頭発表・ポスター発表 —————
- ◆ 菅原遼: 横浜市大岡川の河川利用に見られる地域連携の特徴、ソトノバ TABLE #4パブリックスペース論文・プロジェクト発表会、2016.3.
 - ◆ 大川薫平・畔柳昭雄・菅原遼: 都市内における貧困密集地区の住居に関する調査研究-フィリピン・セブシティ・バラングイ・ルス地区を対象として-, 日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集、pp.1123-1124, 5556, 2016.8
 - ◆ 横田憲寛・飯塚智哉・畔柳昭雄・菅原遼: 水害常襲地域における文化財指定を受けた水防建築の実態に関する研究、日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集、pp.143-144, 6072, 2016.8
 - ◆ 菅原遼・畔柳昭雄: 河川沿いの露店収容建築の形成過程とその空間的特徴に関する研究-横浜市野毛地区の都都商店街ビルに着目して-, 日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集、pp.165-166, 7061, 2016.8
 - ◆ 加藤千尋・畔柳昭雄・菅原遼: 東京市の簡易住宅供給計画と枝川町住宅の整備過程について、日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集、pp.897-898, 9449, 2016.8
 - ◆ 植松脩人・竹内寛偉・畔柳昭雄・菅原遼: ふ頭公園の空間構成と親水活動特性に関する調査研究、日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集、pp.3-4, 10002, 2016.8
 - ◆ 佐久間大和・畔柳昭雄・菅原遼: 海水浴場における規制の傾向に関する研究-関東地方を対象として-, 日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集、pp.5-6, 10003, 2016.8
 - ◆ Yuanyuan Yang・畔柳昭雄・菅原遼: Trend Analysis of Environmentally Conscious Urban Development in China-An

Overview of Sponge City Construction Policy-, 日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集、pp.869-870, 40407, 2016.8

- ◆ 小海諄・畔柳昭雄・菅原遼: 多自然川づくりからみた水辺環境の変化に関する研究-横浜市和泉川を対象として-, 日本建築学会大会(九州)学術講演梗概集、pp.945-946, 40445, 2016.8
 - ◆ 菅原遼・畔柳昭雄: 日本居民参加型河川利用維持管理活動的動向-以三島市源兵衛川・横浜市いたち川・横浜市和泉川事例-, 2016 中国-丹麥城農水系統生態修復与海綿都市建設国際会議、2016.9.
 - ◆ 楊元園・畔柳昭雄・菅原遼: 東京市雨水管理現状及動向、2016 中国-丹麥城農水系統生態修復与海綿都市建設国際会議、2016.9.
 - ◆ 大川薫平・畔柳昭雄・菅原遼: フィリピン・セブシティ・バラングイの住居改善に向けた建築的提案-その1 バラングイ・マンバラング、バサック・サン・ニコラス地区を対象として-, 第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.614-615, 2016.12
 - ◆ 土橋大輔・大川薫平・畔柳昭雄・菅原遼: フィリピン・セブシティ・バラングイの住居改善に向けた建築的提案-その2 空間構成と諸室利用からみたバラングイ住居の特徴-, 第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.616-617, 2016.12
 - ◆ 芳西優汰・大川薫平・畔柳昭雄・菅原遼: フィリピン・セブシティ・バラングイの住居改善に向けた建築的提案-その3 建築材料からみた住居の提案-, 第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.618-619, 2016.12
 - ◆ 飯塚智哉・畔柳昭雄・菅原遼: 洪水常襲地域における言い伝えと生活の関連性に関する研究-埼玉県における降雨・洪水予知の特徴-, 第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.620-621, 2016.12
 - ◆ 楠瀬大志・畔柳昭雄・菅原遼: 染色業における河川との係わりの変遷に関する研究、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.622-623, 2016.12
 - ◆ 佐久間大和・畔柳昭雄・菅原遼: 海水浴場の環境保全に対する経済的価値に関する研究、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.624-625, 2016.12
 - ◆ 宮川駿也・畔柳昭雄・菅原遼: 九州地方に立地する海洋建築物の建設経緯及びその変遷に関する調査研究、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.626-627, 2016.12
 - ◆ Yuanyuan Yang・Akio Kuroyanagi・Ryo Sugahara: Analysis on Current Situation and Problems of Sponge City Construction in Zhenjiang, China, 第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.628-628, 2016.12
 - ◆ 新井侑子・畔柳昭雄・菅原遼: 隅田川流域における堤防整備の変遷に伴う人の活動の変化に関する研究、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.680-681, 2016.12
 - ◆ 大槻愛・畔柳昭雄・菅原遼: 東京における金魚養殖業の発展に関する研究-東京都江戸川区を対象として-, 第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.682-683, 2016.12
 - ◆ 植松脩人・畔柳昭雄・菅原遼: イベントによる河川空間の利活用に関する研究-東京都17市区を対象として-, 第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.684-685, 2016.12
 - ◆ 江田拓海・畔柳昭雄・菅原遼: 日本十大大都市圏における河川区域内の既存不適格建築物に関する調査研究-関東大都市圏を対象として-, 第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.686-687, 2016.12
 - ◆ 飯塚智哉・畔柳昭雄・菅原遼: 埼玉県における俣沼からみた地勢と生活、第13回環境情報科学ポスターセッション、2016.12.
 - ◆ 小海諄・畔柳昭雄・菅原遼: 和泉川地蔵原の水辺における「水辺-人-空間」の係わり合い-市民団体の動向・実態に着目して-, 第13回環境情報科学ポスターセッション、2016.12.
- 著書・執筆等 —————
- ◆ 畔柳昭雄 他1名: みず・ひと・まち-親水まちづくり-, 技報堂出版、2016.6.
 - ◆ 畔柳昭雄 他3名: 水屋・水塚-水防の知恵と住まい-, LIXIL 出版、2016.6.
 - ◆ 畔柳昭雄: 水防文化紹介、書評欄、読売新聞(大阪)、2016.6.19

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆ 畔柳昭雄：凡話、1面、京都新聞、2016.6.26
- ◆ 畔柳昭雄：洪水に備える先人の知恵、朝日新聞、2016.7.21
- ◆ 畔柳昭雄：「水屋」「水塚」暮らしの水防建築、批評&探求、毎日新聞、2016.7.28
- ◆ 畔柳昭雄：家、川をおよぐ、成相肇のやっかい、もっかい、てんらんかい、芸術新潮、新潮社、2016.12.
- ◆ 畔柳昭雄：水屋：水塚、書評コーナー、サンデー毎日、2016.12.20

作品

- ◆ 畔柳昭雄：Bamboo Pergola、ODAIBA ピーチスポーツフェスティバル 2016、2016.5
- ◆ 畔柳昭雄：一瞬亭 - 茶事到来 -, ABLE&PARTNERS TOKYO DESIGN WEEK in NY、2016.5
- ◆ 畔柳昭雄：水屋・水塚 - 水防の知恵と住まい - 展、LIXIL GALLERY ギャラリー大阪、2016.6.3 ~ 8.3.
- ◆ 畔柳昭雄：水屋・水塚 - 水防の知恵と住まい - 展、LIXIL GALLERY ギャラリー1 (東京)、2016.9.8 ~ 11.26

受賞

- ◆ 菅原遼：水辺開放のための行政・事業者・住民の連携体制構築に関する一連の研究、環境情報科学センター学術論文奨励賞、2016.5.
- ◆ 菅原遼：都心部の水辺の社会実験にみる事業スキームに関する研究、日本沿岸学会論文奨励賞、2016.7.
- ◆ 楠瀬大志・新井侑子・大槻愛：風船亭、日本建築学会主催 創立130周年記念建築文化週間2016 学生グランプリ「銀茶会の茶席」、審査員賞、2016.8.
- ◆ 楠瀬大志 他3名:PINT、第1回桜建デザイン・コンクール2016「ストラクチュアル・アートの挑戦」、審査員賞 (鍋島千恵賞)、2016.11.

学外活動 (講演・講師等)

- ◆ 畔柳昭雄：海域システム講座「海洋プロジェクト」、特別招聘講師、香川大学工学部安全システム建設工学科、2016.6.29
- ◆ 畔柳昭雄：水屋・水塚の話 洪水対策の日本人の知恵を学ぶ、RSO 第3回講演会、2016.9.30
- ◆ 畔柳昭雄：対談 水屋・水塚 水防建築を歩く、LIXIL ショールーム大阪、2016.7.16
- ◆ 畔柳昭雄：対談 水屋・水塚 水防の建築を歩く、AGC Studio (東京)、2016.10.21
- ◆ 畔柳昭雄：日本 (世界) の海水浴の歴史と海水浴のこれから、柏崎観光協会、2016.10.14
- ◆ 畔柳昭雄：荒川流域の水屋・水塚、さいたま市民大学講座<歴史コース>、2016.11.12
- ◆ 菅原遼：法政大学大学院政策創造研究科・比較都市事例研究「水辺の社会実験に見る都市の水辺の賑わい創出の動向」、講義、2016.10.17.
- ◆ 菅原遼：第41回水環境シンポジウム「水辺の公私計画論 - 水辺の新たな計画・マネジメントに向けて -」、講演、2017.3.3.

学外活動 (学会名または組織名・委員会)

[教授 畔柳昭雄]

- ◆ 日本建築学会・水辺の公私計画論検討小委員会 (委員)
- ◆ 日本建築学会 海洋建築本委員会委員 (委員) 海洋建築フィールド小委員会 (委員)
- ◆ 環境情報科学センター企画委員会 (委員)
- ◆ 環境情報科学センター賞選考委員会 (委員)
- ◆ 海洋工学会 理事

- ◆ 日本水産工学会 (評議員/学協会等連絡担当委員)
- ◆ 神奈川県港湾審議会 (会長 2017.9.まで)
- ◆ 千葉県魅力ある建設事業推進協議会 (委員)

[助教 菅原遼]

- ◆ 日本建築学会・水辺の公私計画検討小委員会 (委員)
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会津波建築システム小委員会 (委員)
- ◆ 一般社団法人水辺荘 (理事)

海外出張・海外調査

- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：ICFF「ABLE&PARTNERS TOKYO DESIGN WEEK in NY」における作品展示、アメリカ・ニューヨーク市、2016.5.9 ~ 20.
- ◆ 菅原遼：「OMAE2016」における研究発表、韓国・釜山市、2016.6.20 ~ 22.
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：韓国海洋大学校との「日韓デザインワークショップ2016」への参加、韓国・釜山市、2016.8.16 ~ 21.
- ◆ 畔柳昭雄：ドバイにおける人工島の実用化の現地調査、UAE ドバイ・アブダビ、2016.9.21 ~ 25.
- ◆ 菅原遼：「2016 中国・丹麥城農水系統生態修復与海綿都市建設国際会議」における研究発表、中国・杭州市、2016.9.25 ~ 28.
- ◆ 畔柳昭雄：科研費調査のため中国安徽省宏村の現地調査、中国・安徽省、2016.10.27 ~ 11.1.
- ◆ 畔柳昭雄：浮体式構造物の現地調査、ミャンマーヤンゴン・インレー湖、2016.11.28 ~ 12.2.
- ◆ 畔柳昭雄：浮体式構造物の実用化の現地調査、オーストラリア・ケアンズ、2017.1.20 ~ 23.
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：韓国海洋大学校との研究交流会への参加、韓国・釜山市、2017.2.12 ~ 14.
- ◆ 菅原遼：貧困密集地区における住環境改善提案、フィリピン・セブ市、2017.3.20 ~ 23.

研究助成・受託研究

- ◆ 畔柳昭雄：2014年度「科学研究費・基盤研究 (C) 一般」：洪水常襲地帯における水防建築の空間的設えと生活様式のあり方に関する研究、2014.4. ~ 2017.3.
- ◆ 畔柳昭雄：2015年度「理工学部プロジェクト研究」：海洋空間の有効利用のための超大型浮体式構造物に関する調査研究、2016.4. ~ 2018.3.
- ◆ 畔柳昭雄：2016年度「理工学部国際研究集会・ワークショップ開催補助制度」：日韓学生によるデザインワークショップ2016の開催、2016.4.
- ◆ 畔柳昭雄：研究奨励寄付金：歴史的・空間的視点から捉えた減勢治水を考慮した水防建築の調査研究、大成建設株式会社、2016.4. ~ 2017.3.
- ◆ 畔柳昭雄：研究奨励寄付金：人と水との関わりに関する研究、株式会社日本港湾コンサルタント、2016.4. ~ 2017.3.
- ◆ 畔柳昭雄：受託研究：防災訓練に関する調査分析、株式会社オリエンタルコンサルタンツ、2016.4. ~ 2017.3.
- ◆ 畔柳昭雄：研究奨励寄付金：海洋建築物を用いた水面空間の有効利用に関する調査研究、公益財団法人戸田育英財団、2016.8. ~ 2017.3.
- ◆ 菅原遼：2016年度科学研究費 (若手研究) 獲得支援研究助成金：水辺の市民開放に向けた親水社会圏の解明に関する研究、2016.4. ~ 2017.3.
- ◆ 菅原遼：受託研究：水辺のまちづくりに関する調査研究、株式会社水辺総研、2017.2. ~ 2018.1.
- ◆ 菅原遼：受託研究：水辺の社会実験に関する調査研究、株式会社水辺総研、2017.2. ~ 2018.1.

教員研究業績 研究室活動業績

小林(直)研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆小林直明：震災復興・防災都市デザイン計画手法の実証的研究、海洋工学シンポジウム発表、2017.3
- ◆小林直明：文化財建築物のサステナブルエネルギーの利用 重要文化財 自由学園明日館、日本建築学会大会（九州）梗概集、pp.214-215、14107、2016.8
- ◆小林直明：復興のさきの発展を目指した防災まちづくりと水上空港ネットワーク構想、第3回国連防災会議仙台大会パブリックフォーラム発表、2015.3
- ◆小林直明：放射能汚染地区の復興計画デザイン、建築学会神戸大会建築デザイン発表、2014.9

著書・執筆等

- ◆日本大学理工学研究ジャーナル「研究施設における内部と外部空間の連携による空間的効果の計画手法」2017.4
- ◆近代建築（特集・東日本大震災復興プロジェクトコラム）：復興から考えるまちづくりと建築 2014.1.4
- ◆日本大学理工学研究ジャーナル「東日本大震災復興都市モデル計画－津波を抑え込む都市からかわす防災都市へ－」2012.12.13

表彰・受賞

- ◆加藤毅三・中村圭佑・佐藤未来・楠瀬大志：PINT、第1回桜建デザイン・コンクール2016「ストラクチャル・アートの挑戦」、審査員賞（鍋島千賞）、2016.11
- ◆東角井雅人：株式会社オープンハウス インターンシップコンペ2016 最優秀賞
- ◆松田瑠奈：株式会社オープンハウス インターンシップコンペ2016 優秀賞
- ◆ジャパンレジリエンスアワード2016（国土強靱化大賞）最優秀賞・優秀賞・優良賞（水上ネットワーク・放射線被災地の復興まちづくり・津波をかわすまちづくり）2016.3
- ◆「旭市いいおか復興観光まちづくりコンペ」佳作 2013.3

学外活動（学会名または組織名・委員会名）

- ◆日本建築学会 正会員
- ◆日本建築学会 海洋建築小委員会 委員
- ◆SDC（太陽エネルギーデザイン研究会）理事
- ◆水上飛行艇ネットワーク構想研究会 幹事

桜井研究室

審査付論文

- ◆秋本悠喜・桜井慎一：教訓を後世に伝承する津波碑の保存整備に関する研究、日本沿岸域学会、沿岸域学会誌、Vol.28、No.3、pp.29～40、2015年12月31日
- ◆佐久間大和・菅原遼・畔柳昭雄・桜井慎一：海水浴場の環境保全に対する経済的価値に関する研究、日本沿岸域学会、沿岸域学会誌、Vol.29、No.2、pp.59～67、2016年9月30日

口頭発表・ポスター発表

- ◆渡邊亮・桜井慎一：津波ハザードマップの表記内容の統一性に関する研究－全国の沿岸市町村における不統一の現状と課題－、日本沿岸域学会研究討論会2016講演梗概集No.29、1-1、2016.7
- ◆富永柚香・桜井慎一：消波ブロックの景観調和に関する研究－モニタージュ写真を用いた景観評価－、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.1-2、10001、2016.8
- ◆渡邊亮・桜井慎一：津波ハザードマップの表記内容の統一性に関する研究－静岡県下の市町村における不統一の現状と都道府県の指導実態－、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.21-22、10011、2016.8
- ◆富永柚香・桜井慎一：景勝地における消波ブロックの景観調和に関する研究－千葉県の施工事例を対象として－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.630-631、2016.12
- ◆池ヶ谷典宏・桜井慎一：海の観光遊覧船による地域活性化に関する研究－北海道および東北における運営の現状－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.632-633、2016.12
- ◆野口翔・桜井慎一：河川を遡上する津波からの避難対策に関する研究－自治体を対象としたアンケート調査－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.634-635、2016.12

学外活動（講演・講師等）

- ◆桜井慎一：日本建築学会、日本建築学会大会（九州）海洋建築部門、研究協議会、「対津波建築への取り組みと今後の展望」、主題解説パネラー「津波避難対策と課題」講演、2016年8月24日

表彰・受賞

- ◆桜井慎一・秋本悠喜：日本沿岸域学会、日本沿岸域学会論文賞受賞、教訓を後世に伝承する津波碑の保存整備に関する研究、2016年7月16日
- ◆桜井慎一・秋本悠喜：日本海洋工学会、日本海洋工学会 JANSTEC 中西章受賞、2016年7月16日

社会活動

- ◆桜井慎一：船橋市開発審査会（会長）
- ◆桜井慎一：横須賀市西地区漁港海岸整備計画策定検討委員会（委員長）
- ◆桜井慎一：船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会（委員）
- ◆桜井慎一：臨海部都市再開発研究会（委員）
- ◆桜井慎一：文部科学省科学技術動向研究センター科学技術専門家ネットワーク専門調査員

研究助成・受託研究

- ◆桜井慎一：研究奨励寄付金、都心臨海部における新たな事業手法の検討、一般社団法人クルーザーパークヨコハマ、2015年4月から継続

学外活動（学会名または組織名・委員会名）

- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会（幹事）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築企画小委員会（委員）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築計画小委員会（幹事）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・津波建築システム小委員会（委員）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築用語事典改訂準備WG（委員）
- ◆桜井慎一：日本沿岸域学会・論文集編集委員会（委員）

佐藤研究室

口頭発表・ポスター発表

学術講演会

- ◆ 斎藤賢司・佐藤信治：残土の再起増え続ける廃棄物の再構築－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.636-637、2016.12
- ◆ 椿礼・佐藤信治：東京湾口における国際海上物流拠点の設計－複合観光施設としての提案－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.638-639、2016.12
- ◆ 濱嶋杜人・佐藤信治：都市の大樹－高層化された緑による新たな建築空間の提案－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.642-643、2016.12
- ◆ 蒲生良輔・佐藤信治：水田の落ちあがる時－現代における棚田と農家の新しい建築的生活手法－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.640-641、2016.12
- ◆ 永富快・佐藤信治：街を編む水路－鐘ヶ淵駅防災拠点化の提案－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.646-647、2016.12
- ◆ 宮嶋悠輔・佐藤信治：首都高高架の21世紀型日本橋化構想、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.644-645、2016.12
- ◆ 山本雄太郎・佐藤信治：食の循環施設の提案－都市で行う1次産業－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.648-649、2016.12
- ◆ 新部瑠介・佐藤信治：防災への道－震災から人を守る街のプロジェクト－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.650-651、2016.12
- ◆ 出山亮・佐藤信治：浮体式発電施設の設計－次世代型エネルギーを用いた海上インフラ網の提案－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.652-653、2016.12
- ◆ 山影悠時・佐藤信治：「海の森」の再構－エネルギー生産を有したグリーンフローティングの提案－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.654-655、2016.12
- ◆ 志堂侑太・佐藤信治：体験教育の再構築となる国立青少年自然の家－海士町の離島環境を活かした施設の設計－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.656-657、2016.12
- ◆ 千葉雄介・高橋翔・佐藤信治：ハルビンパークプロジェクト－地域観光産業となるテーマパークの提案－第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.658-659、2016.12
- ◆ 佐々木秀人・佐藤信治：移民受け入れによる外国人居住者のための居住形態の提案 第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.660-661、2016.12
- ◆ 小貫笑美依・佐藤信治：秋田県大曲地域における橋の改修の提案、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.662-663、2016.12
- ◆ 青木絵子・金井亮祐・重田秀之・佐藤信治：わらび劇場を中心としたあきた芸術村の改修案（1）－賑わいの大広間－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.664-665、2016.12
- ◆ 黄起範・矢島結菜・重田秀之・佐藤信治：わらび劇場を中心としたあきた芸術村の改修案（2）－あきた芸術村ブロードウェイ化計画－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.666-667、2016.12
- ◆ 赤堀厚史・松下知可・重田秀之・佐藤信治：わらび劇場を中心としたあきた芸術村の改修案（3）－心身を育む場－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.668-669、2016.12
- ◆ 滝村菜香・佐藤信治：都市型循環施設の試設計、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.670-671、2016.12
- ◆ 衛藤成波・佐藤信治：伊根町舟屋群保存計画、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.672-673、2016.12
- ◆ 福富大真・佐藤信治：街中競技場－現代的な“都市とスポーツ”のあり方を求めて－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.674-675、2016.12
- ◆ 上田紗矢香・佐藤信治：カンボジアにおける陸上フローティングヴィレッジの提案－ツーリストの滞在を活かした教育施設の設計－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.676-677、2016.12

- ◆ 谷醒龍 walled city－中国の集合住宅の研究－、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.560-561、2016.12

日本建築学会

- ◆ 高橋翔・佐藤信治：新宿群中街－新宿ゴールデン街更新計画－、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.2-3、14001、2016.8
- ◆ 千葉雄介・佐藤信治：希望の架橋－EUの言語、文化の教育施設を含めた難民の複合施設の提案－、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.156-157、14078、2016.8
- ◆ 川崎将・佐藤信治：訪日外国人を対象とした複合医療リゾートの提案－浜名湖の水辺環境と先進医療を組み合わせた施設の設計－、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.158-159、14079、2016.8
- ◆ 遠洞躍斗・佐藤信治：地域包括ケアシステムを総合化した複合施設の拠点の提案－北海道函館市緑の島を活用した施設の設計－、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.160-161、14080、2016.8
- ◆ 中山敦雄・佐藤信治：国際貨物コンテナを活用したネットワーク水族館の設計、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.262-263、14131、2016.8
- ◆ 山川大喜・佐藤信治：首都圏における橋の防災拠点化計画の提案－品川区京浜運河に架かる勝島橋をケーススタディとして－、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.304-305、14152、2016.8
- ◆ 望月翌次・佐藤信治：静岡県焼津市における新市庁舎の設計－津波防災と観光機能を複合した地域交通拠点の提案－、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.306-307、14153、2016.8
- ◆ 重田秀之・佐藤信治：驛上都市－人口減少時代に突入した郊外における立体都市の提案－、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.360-361、14180、2016.8

一般社団法人宇宙エレベーター学会

- ◆ 佐藤信治「軌道エレベーターアースポートのデザイン2015」(JapanSpace Elevator Conference 2016 第8回宇宙エレベーター学会：5月28日)

第26回海洋工学シンポジウム

- ◆ 佐藤信治・山川大喜・重田秀之：ける橋の防災拠点化計画の提案 東京都品川区京浜運河に架かる勝島橋をケーススタディとして、2017年3月7日

作品

卒業設計

- ◆ 第28回千葉県建築学生賞（主催：千葉県建築学生賞協議会）奨励賞：重田秀之・奨励賞：高橋翔
- ◆ 第48回DAS・毎日デザイン賞（主催：毎日新聞社 一般社団法人総合デザイナー協会 共催：大阪デザイン振興プラザ）建築部門賞：高橋翔

建築学会コンペ

- ◆ 「残余空間に発見する建築」(主催：日本建築学会 応募締切：6月24日) タジマ奨励賞：宮嶋悠輔・門口雅奈・谷醒龍・濱嶋杜人

その他コンペ

- ◆ ERI学生デザインコンペ2016（主催：ERIホールディングス 応募締切：9月9日）佳作：蒲生良輔・小貫笑美依・福富大真
- ◆ 歴史的空間再編コンペティション2016（主催：歴史的空間再編コンペティション実行委員会 共催：株式会社総合資格 株式会社国土開発センター 他10社 募集締切：10月17日）50選：佐々木秀人・新部瑠介
- ◆ 都市のパブリックスペースデザインコンペ（主催：株式会社日建設 後援：株式会社新建築社 応募締切：12月5日）一次審査通過：志宣侑太・金井亮祐 一次審査通過：永富快・上田紗矢香・山本雄太郎、3月12日最終プレゼンテーション

実施コンペ

- ◆ 佐藤信治＋佐藤信治研究室＋アトリエK、玖西地区総合支所建設基本設計業務プロポーザルコンペ、総合第二位、山口県、2016年8月31日

教員研究業績 研究室活動業績

受賞

- ◆佐藤信治他2名：第二十回日本工学教育協会工業教育賞（業績部門）、公益社団法人日本工業教育協会、2016年9月5日
- ◆黄起範：住宅課題賞2016 建築系大学住宅課題優秀作品展示（竹中工務店東京本店ギャラリーエークウッドホール 2016年11月4日～11月18日）
- ◆黄起範：第8回 Vectorworks 教育シンポジウム 2016 作品展示（大手町サンケイプラザ 2016年8月19日）
- ◆佐藤信治・佐々木秀人：第60回日本大学理工学部学術講演会、優秀発表賞、移民受け入れによる外国人居住者のための居住形態の提案、2016.12

著書・執筆等

- ◆佐藤信治ほか編・著：住宅課題賞2016「建築系大学住宅課題賞作品展」、株式会社総合資格、2016年7月8日
- ◆佐藤信治ほか編・著：OASIS加盟校学生作品集「2016年度版」、エーアンドエー株式会社、2016年8月28日
- ◆佐藤信治他 編・著：改訂版空間デザインを学ぶ、(株)DTP出版、2016年9月16日
- ◆佐藤信治 他著：第13回 JIA 関東甲信支部大学院修士設計展、(株)総合資格学院、2016年3月10日

学外活動（講演・講師等）

- ◆佐藤信治：あきた芸術村の未来について日本大学の学生と考えました、於：秋田県大仙市あきた芸術村ゆほぼ内ホール、2016年9月6日、講演会講師

ネットメディア Response への掲載

- ◆レスポンス 第8回宇宙エレベーター学会（JpSEC）の模様「宇宙エレベーター」実現目指し8回目の学会、環境保護の視点も 2016年6月2日 <http://response.jp/article/2016/06/02/276208.html>

学外活動（学会名または組織名・委員会名）

- ◆(株)日本建築学会全国建築系大学教育連絡協議会委員
- ◆(株)日本建築学会 JABEE 学部課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会審査委員
- ◆(株)日本建築学会 JABEE 修士課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会審査委員
- ◆(株)東京建築士会
- ◆千葉県産学連携建築連絡会議運営委員会委員
- ◆千葉県建築学生賞 運営委員会委員
- ◆秋田産業サポータークラブ委員会委員
- ◆(株)海洋環境創生機構運営委員会委員
- ◆秋田県能代市産業振興アドバイザー

海外出張・海外調査

- ◆佐藤信治：中国北京、ハルビン、2016年8月2日～5日、哈爾濱市金王朝を含むウォーターフロント再開発計画のため
- ◆佐藤信治：中国北京、ハルビン、2017年3月27日～31日、哈爾濱市金王朝を含むウォーターフロント再開発計画のため

山本研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆狩野悠介・山本和清・近藤健雄・宮崎渉・佐藤陽一：漁村集落における高齢者の円滑な津波避難に関する研究—三重県会郡南伊勢町榎柄浦地区を対象として—、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、5-3、2016.7
- ◆村上研・山本和清・近藤健雄・宮崎渉・工藤勇人：災害からの復旧・復興時における地籍調査の有用性に関する基礎的研究—神奈川県及び岩手県の沿岸地域を対象として—、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.7-8、10004、2016.8
- ◆菊池志帆・山本和清・近藤健雄：沖縄県における自主防災組織結成の現状と共助のあり方に関する傾向分析、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.9-10、10005、2016.8
- ◆野崎健人・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域における地域防災協定に関する研究—東日本大震災後の協定内容の改定について—、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.688-689、2016.12
- ◆池田健悟・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：水産多面的機能発揮対策事業における漁業者の取り組みに関する研究—四国地方に所在する46カ所の活動組織を対象として—、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.690-691、2016.12
- ◆村上研・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：東日本大震災を教訓とした防災教育の有用性に関する基礎的研究、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.692-693、2016.12
- ◆狩野悠介・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：防災拠点としての「みなとオアシス」のあり方に関する調査研究、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.694-695、2016.12
- ◆本多幸輝・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：災害時における拠点マリナーの支援可能性に関する基礎的研究—全国の災害支援中核マリナーを対象として—、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.696-697、2016.12
- ◆西野太朗・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：大規模災害における高齢者福祉施設のBCP策定に関する基礎的研究—高齢者福祉施設が多数立地する静岡県沿岸部を対象として—、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.698-699、2016.12
- ◆城田大輔・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：漁村集落における津波避難を想定した要援護者住居地域の選定に関する調査研究—避難可能エリアと津波ハ

ザードマップからの分析—、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.700-701、2016.12

著書・執筆等

- ◆近藤健雄（共著）：「情熱都市 YMM21 まちづくりの美学と力学」、鹿島出版会、2017.2.15

受賞

- ◆近藤健雄・山本和清・佐藤信治：大学・自治体・住民との地域連携による「海を活かしたまちづくり」をテーマとする地域活性化への貢献、日本工業教育会「工業教育賞」受賞、2016.9.5
- ◆城田大輔・山本和清・近藤健雄・宮崎渉：第60回日本大学理工学部学術講演会、優秀発表賞、2016.12

学外活動（講演・講師等）

- ◆山本和清：津波災害時を想定した高齢者（要援護者）の避難計画とアクセスデザイン（Hansa）体験乗船活動について、日本福祉のまちづくり学会「身体と空間特別研究委員会」にて講演、2017.1.23

学外活動（学会名または組織名・委員会名）

【専任講師 山本和清】

- ◆日本沿岸域学会・企画運営委員会 委員
- ◆日本福祉のまちづくり学会・身体と空間特別研究委員会 委員
- ◆千葉県・千葉県建設工事総合評価委員会 委員
- ◆東京湾の環境をよくするために行動する会 監事
- ◆（一社）みなと船橋振興協会 理事
- ◆東京湾再生官民連携フォーラム・江戸前ブランドPTメンバー

【特任教授 近藤健雄】

【学協会等の役員】

- ◆（一財）漁港漁村漁場総合研究所 評議員
- ◆（一財）みなと総合研究財団 未来のみなとづくり助成 審査委員
- ◆（一財）みなと総合研究財団 客員研究員
- ◆（一財）国際臨海開発研究センター 役員選定委員
- ◆（一財）海域環境研究機構 理事
- ◆（一財）港湾空港総合技術センター 役員選定委員

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆(一財) 海洋レジャー安全・振興協会 海の駅ネットワーク協議会 理事
- ◆(一社) みなと船橋振興協会 会長
- ◆(一社) 日本マリナー・ビーチ協会 参与
- ◆(NPO) 海の学体験活動協議会 顧問
- ◆(NPO) 沿岸開発機構・千葉 副会長
- ◆(NPO) 大阪湾みなとまち生活文化研究センター 理事長

《委員会等：国関係》

- ◆国土交通省・環境省・農林水産省共管：自然再生専門家会議 専門委員

《委員会等：都県関係》

- ◆茨城県土木部 ポートパーク指定管理者選定委員会 委員長
- ◆千葉県商工労働部 海岸・砂浜の新たな利活用に関する研究会 会長
- ◆千葉県県土整備部 九十九里浜海岸保全検討委員会 委員長
- ◆神奈川県県土整備局藤沢土木事務所 茅ヶ崎中海岸浸食対策協議会 会長

《委員会等：市町村関係》

- ◆横須賀市 平成港周辺土地利用事業者選考委員会 委員長
- ◆館山市 ふるさと特使
- ◆館山市 建設工事総合評価委員

北嶋研究室

審査付論文

- ◆岩田希・田才晃・齋藤純毅・北嶋圭二：鉄筋コンクリート造十字形柱梁接合部を対象とした多数回繰返し載荷実験、コンクリート工学年次論文集、Vol.38、No.2、pp.313-318、2016.7
- ◆朝比奈大輔・藤井幸泰・菅智輝・島田拓実・北嶋圭二・佐藤稔・高橋学：圧裂引張試験で形成された地質材料の破断面性状と力学的特性、第14回岩の力学国内シンポジウム、No.028、2017.1

口頭発表・ポスター発表

- ◆波田雅也・村井克綺・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：部材長10mの長尺折返しプレースの実大加力実験（その1 開発主旨および実大試験体の製作状況）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.795-796、22398、2016.8
- ◆村井克綺・波田雅也・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：部材長10mの長尺折返しプレースの実大加力実験（その2 実験概要および結果）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.797-798、22399、2016.8
- ◆沖野貴久・高村皓輝・原田耕成・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の加振実験（その1 実験概要および基礎板のみの加振実験）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.615-616、21308、2016.8
- ◆高村皓輝・沖野貴久・原田耕成・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の加振実験（その2 初期変位を与えた加振実験と上屋付き試験体の加振実験）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.617-618、21309、2016.8
- ◆横澤輝・齋藤純毅・岩田希・杉本訓祥・田才晃・楠浩一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：柱梁曲げ強度比が小さい鉄筋コンクリート造十字形柱梁接合部を対象とした多数回繰返し載荷実験（その1 実験概要）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.399-400、23200、2016.8
- ◆齋藤純毅・横澤輝・岩田希・杉本訓祥・田才晃・楠浩一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：柱梁曲げ強度比が小さい鉄筋コンクリート造十字形柱梁接合部を対象とした多数回繰返し載荷実験（その2 実験結果）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.401-402、23201、2016.8
- ◆岩田希・横澤輝・齋藤純毅・杉本訓祥・田才晃・楠浩一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：柱梁曲げ強度比が小さい鉄筋コンクリート造十字形柱梁接合部を対象とした多数回繰返し載荷実験（その3 実験結果と検討）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.403-404、23202、2016.8
- ◆山崎信宏・石山昌幸・染谷優太・久保田雅春・名取祥一・阿部隆英・三塩洋一・石渡康弘・北嶋圭二：間柱型せん断パネルダンパーに関する実験的研究（その1 レンズ形状を有するせん断パネルダンパーを設置した鉄骨間柱の実験概要）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.115-116、21058、2016.8
- ◆染谷優太・石山昌幸・山崎信宏・久保田雅春・名取祥一・阿部隆英・三塩洋一・石渡康弘・北嶋圭二：間柱型せん断パネルダンパーに関する実験的研究（その2 レンズ形状を有するせん断パネルダンパーを設置した鉄骨間柱の実験結果）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.117-118、21059、2016.8
- ◆名取祥一・久保田雅春・阿部隆英・石山昌幸・山崎信宏・染谷優太・三塩洋一・石渡康弘・北嶋圭二：間柱型せん断パネルダンパーに関する実験的研究（その3 レンズ形状を有するせん断パネルダンパーを設置した

鉄骨間柱の評価) 日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.119-120、21060、2016.8

- ◆北嶋圭二・秦一平：熊本地震被害の概要、理工学研究所講演会第60回学術講演会 記念シンポジウム、pp.1-2、2016.12
- ◆秦一平・北嶋圭二・服部恵多・高鹿雅樹：免震、制震建物の被害調査、理工学研究所講演会第60回学術講演会 記念シンポジウム、pp.11-12、2016.12
- ◆歌田航己・北嶋圭二・中西三和・安達洋：制震構造建物の保有減衰性能評価法に関する研究、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度系部会、pp.122-123、2016.12
- ◆波田雅也・村井克綺・竹内健一・高村皓輝・北嶋圭二・中西三和・安達洋：大架構を想定した長尺折返し式プレースの実大加力実験（その1 開発主旨および実大試験体の製作状況）、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度系部会、pp.144-145、2016.12
- ◆村井克綺・波田雅也・竹内健一・高村皓輝・北嶋圭二・中西三和・安達洋：大架構を想定した長尺折返し式プレースの実大加力実験（その2 実験概要および結果）、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度系部会、pp.146-147、2016.12
- ◆高村皓輝・沖野貴久・原田耕成・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の応答性状に関する研究（その1 実験概要および基礎板のみの加振実験）、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度系部会、pp.152-153、2016.12
- ◆沖野貴久・高村皓輝・原田耕成・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の応答性状に関する研究（その2 初期変位を与えた加振実験と上屋付き試験体の加振実験）、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度系部会、pp.154-155、2016.12
- ◆原田耕成・高村皓輝・沖野貴久・北嶋圭二・中西三和・安達洋：テーパー付き滑り基礎構造建物の応答性状に関する研究（その3 加振実験の再現性確認のための時刻歴応答解析）、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度系部会、pp.156-157、2016.12
- ◆横澤輝・齋藤純毅・山中邦元・北嶋圭二・中西三和・安達洋：多数回繰返し載荷を受ける柱梁曲げ強度比が小さいRC造十字形接合部の部材性能に関する研究（その1 実験概要）、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度系部会、pp.148-149、2016.12
- ◆齋藤純毅・横澤輝・山中邦元・北嶋圭二・中西三和・安達洋：多数回繰返し載荷を受ける柱梁曲げ強度比が小さいRC造十字形接合部の部材性能に関する研究（その2 実験結果）、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度系部会、pp.150-151、2016.12
- ◆眞鍋久輝・齋藤大樹・竹本幸弘・北嶋圭二・中西三和・安達洋：あと施工せん断補強鉄筋を施したRC造梁のせん断補強効果に関する研究 - 実験概要 -、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度系部会、pp.140-141、2016.12
- ◆齋藤大樹・眞鍋久輝・竹本幸弘・北嶋圭二・中西三和・安達洋：あと施工せん断補強鉄筋を施したRC造梁のせん断補強効果に関する研究 - 実験結果 -、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度系部会、pp.142-143、2016.12
- ◆加瀬佑弥・高橋喜喜・末武紘一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：氷域における海洋構造物と氷盤の相互作用に関する研究（その1 低温実験室における尿素模型海水の作製法と物性試験の概要）、第60回日本大学理工学部学術講

教員研究業績 研究室活動業績

演会予稿集、海洋建築系部会、pp.722-723、2016.12

- ◆末武紘一・加瀬佑弥・高橋基喜・北嶋圭二・中西三和・安達洋：氷海域における海洋構造物と氷盤の相互作用に関する研究（その2 尿素模型海水の物性と貫入試験結果）、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.724-725、2016.12

著書・執筆等

- ◆北嶋圭二ほか：「免震・制振構造の設計 学びやすい構造設計 第2版」、日本建築学会関東支部、2016.11
- ◆中西三和ほか：「東日本大震災合同調査報告一総集編一」、東日本大震災合同調査報告編集委員会、2016.12

学外活動（講演・講師等）

【教授 北嶋圭二】

- ◆北嶋圭二：JSCA 千葉平成29年新年会記念講演会「最新の耐震技術の紹介」、日本建築構造技術者協会、2017.2（招待講演）
- ◆北嶋圭二：韓国技術者向け制振セミナー「制振構造の力学原理と性能曲線」および「制振構造設計事例」、日本免震構造協会、2016.12（講師）
- ◆北嶋圭二：免震・制振構造の設計—学びやすい構造設計—改訂講習会、「第4章 制振構造の設計」、日本建築学会関東支部、2016.11（講師）
- ◆北嶋圭二：パッシブ制振構造設計・施工マニュアル粘性系制震部材の静的設計法に関する講習会「定常応答解析に基づく保有減衰評価法及び設計法」および「熊本地震における制震補強建物の被災状況」、日本免震構造協会、2016.9（講師）

【特任教授 中西三和】

- ◆中西三和：JSCA 千葉平成29年新年会記念講演会「熊本地震被害報告」、日本建築構造技術者協会、2017.2（招待講演）

学外活動（学会名または組織名・委員会名）

【教授 北嶋圭二】

- ◆日本建築学会 代議員
- ◆日本建築学会 既存中層RC建物の耐震性能評価小委員会（幹事）
- ◆日本建築学会 既存中層RC建物の耐震性能評価小委員会評価例作成WG（主査）
- ◆日本建築学会 等価線形化法に基づく地震応答評価WG（委員）
- ◆日本建築学会 海洋建築エンジニアリング小委員会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部 地震災害調査連絡会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部 講習会用構造テキスト委員会免震制振構造の設計執筆WG（委員）

◆日本免震構造協会 制震部材品質基準小委員会（委員）

- ◆日本免震構造協会 制震部材品質基準小委員会摩擦ダンパーWG（委員）
- ◆日本免震構造協会 パッシブ制振評価小委員会制振普及WG（委員）
- ◆日本免震構造協会 パッシブ制振評価小委員会基準対応WG（委員）
- ◆日本免震構造協会 修士論文賞審査委員会（委員）
- ◆構造調査コンサルティング協会 構造物評定委員会（委員）
- ◆ハウスプラス確認検査 耐震診断・耐震改修等評定委員会（委員）
- ◆ハウスプラス確認検査 高層評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会 耐震判定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会 高層評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会 指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会（委員）

【特任教授 中西三和】

- ◆日本建築学会 海洋建築本委員会（委員）
- ◆日本建築学会 海洋建築企画小委員会（委員）
- ◆日本建築学会 震災報告書編集委員会（委員）
- ◆日本建築学会 災害委員会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部 地震災害調査連絡会（委員）
- ◆国際確認検査センター 評価委員会（委員）
- ◆耐震技術広域連携協議会 耐震構造性能判定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会 指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会（委員）

海外出張・海外調査

- ◆北嶋圭二：韓国海洋大学校海洋空間建築学科との学術交流、韓国釜山、2016.8.15-16

研究助成・受託研究

- ◆北嶋圭二：受託研究、青木あすなろ建設(株)、合理的な耐震構造システムに関する研究開発
- ◆北嶋圭二：受託研究、日本鋳造(株)ほか、レンズダンパーに関する共同研究に係るRC造間柱の構造性能確認実験
- ◆北嶋圭二：受託研究、三菱重工メカトロシステムズ(株)、止水性能実証実験
- ◆北嶋圭二・中西三和：受託研究、(株)巴技研、L形断面柱の圧縮実験
- ◆北嶋圭二・中西三和：受託研究、(株)奥村組、免震装置交換工事に伴う仮受け工法の妥当性確認実験
- ◆北嶋圭二：研究奨励寄付金、日本鋳造(株)、レンズ型制震ダンパーの技術開発
- ◆北嶋圭二：研究奨励寄付金、エモーションズ(株)、壁面取付金具の耐震実験研究

近藤研究室

審査付論文

- ◆Kiyoshi Shingu, Kiyotoshi Hiratsuska, Norio Kondo Toshihiro Irie, Damping Evaluation of Spherical Pre-stressed Concrete Shell by Filtering and Half-power Bandwidth Method, IASS Symposium, pp.1-10, 2016, Sept.

口頭発表・ポスター発表

- ◆近藤典夫：くい違い配置2円柱の流れ方向に関する流力振動解析、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.49-50、10025、2016.8
- ◆守川耀・近藤典夫：低スクリュートン数での正方形角柱のギャロッピング振動解析、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.329-330、20165、2016.8
- ◆新宮清志・平塚聖敏・近藤典夫・入江寿弘：鉄骨HPシェル構造の減衰定数分析—Yule-AR PSDの次数とFFT長の検討—、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.977-978、20489、2016.8
- ◆守川耀・近藤典夫：近接した直列2角柱のギャロッピング振動解析、日本機

械学会、第29回計算力学講演会、CD-ROM、2016年9月

- ◆横山侑弥・近藤典夫：単一角柱の流力振動における3次元渦構造について、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.720-721、2016.12

学外活動（学会名または組織名・委員会名）

- ◆日本建築学会 構造委員会 シェル・空間構造運営委員会委員
- ◆日本建築学会 構造委員会 応用力学運営委員会委員
- ◆日本建築学会 衝撃作用連成問題小委員会 幹事
- ◆日本建築学会 津波建築システム小委員会委員
- ◆日本建築学会 不整形構造物のモデリング検討委員会委員
- ◆日本機械学会 計算力学講演会 オーガナイザー

研究助成・受託研究

- ◆科学研究補助金 基盤研究（C）：くい違い2円柱の流力振動および作用する流体力特性に関する数値的研究

福井研究室

審査付論文

- ◆山崎祐輝・福井剛・浜原正行：異形 PC 鋼棒を用いたプレキャスト PC 柱と RC 柱のせん断終局強度推定式の提案、コンクリート工学年次論文集 vol.38、pp.499-504、2016.7
- ◆山田泰之・大塚夕・福井剛・浜原正行：PC 造ト形柱梁接合部の応力伝達機構に関する解析的研究、コンクリート工学年次論文集 vol.38、pp.517-522、2016.7
- ◆大川峻・小西智貴・福井剛・浜原正行：PC 造骨組の復元力特性に関する研究、日本建築学会学術講演梗概集、コンクリート工学年次論文集 vol.38、pp.523-528、2016.7
- ◆櫻井琢巳・福井剛・浜原正行：多数回繰り返し曲げせん断を受けるプレキャスト PC 柱の圧着継目の摩擦係数に関する実験的研究、コンクリート工学年次論文集 vol.38、pp.529-534、2016.7
- ◆姜建毅・浜原正行・福井剛：PC 部材と RC 部材が混在する PC 骨組の復元力特性に関する研究、プレストレストコンクリート工学会第 25 回シンポジウム論文集、pp.53-56、2016.10

口頭発表・ポスター発表

- ◆畢成林・小西智貴・大川峻・福井剛・浜原正行：PC 造骨組の復元力特性に関する研究（その 1 骨組モデルの提案）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.783-784、23392、2016.8
- ◆大川峻・小西智貴・畢成林・福井剛・浜原正行：PC 造骨組の復元力特性に関する研究（その 2 計算例）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.785-785、23393、2016.8
- ◆福井剛・浜原正行・大塚夕・内田龍一郎：鉛直荷重を受ける PC 骨組の地震時における力学的挙動（その 1 解析概要）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.787-788、23394、2016.8
- ◆内田龍一郎・福井剛・大塚夕・浜原正行：鉛直荷重を受ける PC 骨組の地震時における力学的挙動（その 2 1 層 1 スパン骨組の復元力特性）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.789-790、23395、2016.8
- ◆大塚夕・浜原正行・福井剛・内田龍一郎：鉛直荷重を受ける PC 骨組の地震時における力学的挙動（その 3 1 層 1 スパン骨組の残留変形時の挙動）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.791-792、23396、2016.8
- ◆浜原正行・福井剛・大塚夕・内田龍一郎：鉛直荷重を受ける PC 骨組の地震時における力学的挙動（その 4 2 層 2 スパンの骨組）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.793-794、23397、2016.8
- ◆山崎祐輝・福井剛・浜原正行・内田順子：異形 PC 鋼棒を用いた PCaPC 部材のせん断終局強度推定式に対するパラメトリックスタディ、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.795-796、23398、2016.8
- ◆山田泰之・小池正大・大塚夕・浜原正行・福井剛：PC 造ト形柱梁接合部の応力伝達機構に関する PC 鋼材定着長さが及ぼす影響（その 1 解析概要）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.801-802、23401、2016.8
- ◆小池正大・山田泰之・大塚夕・浜原正行・福井剛：PC 造ト形柱梁接合部の応力伝達機構に関する PC 鋼材定着長さが及ぼす影響（その 2 解析結果）、日

本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.803-804、23402、2016.8

- ◆後藤翔太・櫻井琢巳・福井剛・浜原正行：曲げせん断を受ける PCaPC 柱圧着継目の摩擦係数に及ぼす載荷交番回数に関する実験的研究（その 1 実験計画）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.809-810、23405、2016.8
- ◆櫻井琢巳・後藤翔太・福井剛・浜原正行：曲げせん断を受ける PCaPC 柱圧着継目の摩擦係数に及ぼす載荷交番回数に関する実験的研究（その 2 実験結果および考察）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.811-812、23406、2016.8
- ◆三品勝大・西山峰広・福井剛・谷昌典・渡邊一弘：梁端部を RC 拡幅補強した軽量 PCaPC 梁の開発（その 3 曲げ耐力余裕度および解析）、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.833-834、23417、2016.8
- ◆畢成林・福井剛・浜原正行：プレストレストコンクリート骨組の耐震性の検討、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度部会、pp.96-97、2016.12
- ◆矢田光輝・姜建毅・福井剛・浜原正行：PC 梁と RC 柱により構成される骨組の復元力特性に関する研究 その 1 解析概要、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度部会、pp.98-99、2016.12
- ◆姜建毅・矢田光輝・福井剛・浜原正行：PC 梁と RC 柱により構成される骨組の復元力特性に関する研究 その 2 解析結果の検討、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度部会、pp.100-101、2016.12
- ◆高橋弘樹・後藤翔太・浜原正行・福井剛：多数回繰り返し曲げせん断を受ける PC 柱の圧着継目滑り耐力に関する実験的研究 PC 柱の圧着継目滑り耐力に関する実験的研究、その 1 実験計画、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度部会、pp.102-103、2016.12
- ◆後藤翔太・高橋弘樹・浜原正行・福井剛：多数回繰り返し曲げせん断を受ける PC 柱の圧着継目滑り耐力に関する実験的研究 PC 柱の圧着継目滑り耐力に関する実験的研究、その 2 実験結果および考察、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、構造・強度部会、pp.104-105、2016.12

学外活動（学会名または組織名・委員会名）

【准教授 福井剛】

- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート構造運営委員会（委員）
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート規準指針小委員会（委員）
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート常時荷重設計法小委員会（主査）
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート材料・施工 WG（委員）
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト作成委員会（委員）
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト委員会 PC 構造の設計改定 WG（主査）
- ◆プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士試験問題小委員会（委員）
- ◆プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士技術講習会小委員会（委員）

居駒・惠藤研究室

審査付論文

- ◆ 惠藤浩朗・佐藤千昭・増田光一・居駒知樹・岸田智之・久保田充：大型石炭貯蔵浮体の弾性応答特性に与える積載方法の影響に関する基礎的研究、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、Vol.72、No.2、p.229-234、2016.8
- ◆ 木原一禎・増田光一・居駒知樹・細川恭史・永田修一・下迫健一郎・大澤弘敬・坂本辰哉：PW 付加振動水柱型波力発電装置の一次、二次エネルギー変換連成解法について、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、Vol.72、No.2、p.L802-L807、2016.8
- ◆ 渡邊由香・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗：潮流発電装置を複数配置した流場影響評価に関する研究、土木学会論文集 B3 (海洋開発)、Vol.72、No.2、pp.L814-L819、2016.8
- ◆ 居駒知樹・塩野光弘・西川省吾・近藤典夫・波多野正俊・惠藤浩朗・田畑昭久：浮体式海洋再生可能エネルギー基地に必要な要素技術に関する研究 (総合論文)、日本大学理工学研究所研究ジャーナル、第 137 号、pp.30-43、2016.10
- ◆ 星野智史・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・相田康洋：防波堤および防潮堤の人的被害に対する低減効果の評価に関する基礎的研究：土木学会 B2 (海岸工学)、Vol.72、No.2、pp.1555-1560、2016.11
- ◆ Hiroaki Eto, Chiaki Sato, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, Tomoyuki Kishida, and Mitsuru Kubota, "Fundamental Study on Elastic Behavior of Large-Scale Floating Coal Stockyard," Proceedings of the ASME 35th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE'16) asme, in Busan South Korea, 54958, 2016.6
- ◆ Hiroaki Eto, Chiaki Sato, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, and Mayumi Nakajima, "Feasibility Study of the Floating Medical Support System to Operate as a Dialysis Treatment Center," Proceedings of the ASME 35th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE'16) asme, in Busan South Korea, 54884, 2016.6
- ◆ Mitsuhiro Masuda, Kiyokazu Minami, and Koichi Masuda, "A Study on Tsunami Protection Measures by the Floating Tsunami Protection Wharf and the Tsunami Mooring Bitt for Mooring Vessel at a Wharf," Proceedings of the ASME 35th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE'16) asme, Busan South Korea, 54791, 2016.6
- ◆ Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, and Satoshi Hoshino, "Fundamental Study on the Development of a Tsunami Hazard Map for Moored Vessels in a Port," Proceedings of the ASME 35th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE'16) asme, in Busan South Korea, 55004, 2016.6
- ◆ Tomoki Ikoma, Koichi Masuda, Hiroaki Eto, Chang-Kyu Rheem and Osamu Enomoto, "Effects of Disturbance of Current Field on Power Characteristics of a Floating Type Pitch-Controlled VAMT in a Real Sea," Proceedings of the ASME 35th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE'16) asme, in Busan South Korea, 54693, 2016.6
- ◆ Yuka Watanabe, Tomoki Ikoma, Koichi Masuda and Hiroaki Eto, "Numerical Modelling with Porous Media for Current Field around HAMT Array," Proceedings of RENEW 2016, 2nd International Conference on Renewable Energies Offshore, pp.581-585, Lisbon, Portugal, 2016.10
- ◆ Kazuyoshi Kihara, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma and Yasushi Hosokawa, "Development of OWC-Type wave power generation device through TRF," Proceedings of the 3rd Asian Wave & Tidal Energy Conference, AWTEC2016, pp.314-319, Marina Bay Sands, Singapore, 2016.10
- ◆ Yuka Watanabe, Tomoki Ikoma, Koichi Masuda and Hiroaki Eto, "Effects of Current Field Around Tidal Turbine Array with Fan and Porous Media," Proceedings of the 3rd Asian Wave & Tidal Energy Conference, AWTEC2016, pp.427-431, Marina Bay Sands,

Singapore, 2016.10

- ◆ Yuka Watanabe, Tomoki Ikoma, Koichi Masuda and Hiroaki Eto, "Influence of HAMT Array of using CFD with Fan and Porous Media," Techno-Ocean 2016, 2A.2, pp.276-279, Kobe, Japan, 2016.10
- ◆ Hiroaki Eto, Chiaki Sato, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, Tomoyuki Kishida, and Mitsuru Kubota, "Effect of Coal Loading Conditions on Elastic Response of LFTS (Large-Scale Floating Transshipment Station for Loading Coal)," Techno-Ocean 2016, 1C.4, pp.171-175, Kobe, Japan, 2016.10
- ◆ Kazuki Murata, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, and Hiroaki Eto, "A Fundamental Study on Application to Collision Analysis of Tsunami Drifting Ship by the MPS Method," Techno-Ocean 2016, 1C.2, pp.158-162, Kobe, Japan, 2016.10
- ◆ Tomoki Ikoma, Koichi Masuda, Kazuyoshi Kihara, Hiroaki Eto and Shogo Shibuya, "A Model Test of an OWC Type WEC Using Wave Dissipating Double-Caissons in a Wave Tank," Techno-Ocean 2016, 4A.2, pp.510-514, Kobe, Japan 2016.10

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 高島まどか・居駒知樹・増田光一・前田久明・惠藤浩朗：プロジェクトング・ウォール付浮体式波力発電システムの一次変換特性、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第 22 号、2016S-GS6-16、pp.613-616、2016.5
- ◆ 渡邊由香・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗：ポーラスメディアを用いた潮流発電装置の流場評価、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第 22 号、2016S-GS6-11、pp.595-596、2016.5
- ◆ 増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・大野正人・星野智史・石橋榮稔：船舶の係留状態を考慮した港湾津波ハザードマップに関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、1-2、2016.7
- ◆ 増田光弘・南清和・増田光一：浮体式津波対策用岸壁を用いた津波防災対策における船舶の係留方法について、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、4-2、2016.7
- ◆ 松岡晃弘・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗・村田一城：MPS 法による沿岸域構造物に作用する津波漂流物の衝撃力と漂流挙動特性に関する研究 その 1 構造物規模に対する漂流速度変化の検討と FEMA 式による衝撃力評価、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、4-3、2016.7
- ◆ 村田一城・居駒知樹・増田光一・相田康洋・惠藤浩朗・松岡晃弘：MPS 法による沿岸域構造物に作用する津波漂流物の衝撃力と漂流挙動特性に関する研究 その 2 仮想弾性境界と FEMA 式の適用性の評価に関する検討、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、4-4、2016.7
- ◆ 増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・石田貴寛：防潮堤の断面形状による津波の越波形状に関する実験的研究、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、8-1、2016.7
- ◆ 星野智史・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗：防波堤の破壊後残存率の違いが人的被害に及ぼす影響に関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、8-2、2016.7
- ◆ 木原一禎・細川恭史・増田光一・居駒知樹・宮崎剛・太田豊彦・下迫健一郎・坂本辰哉・菅木隆行・永田修一：PW-OWC 型波力発電装置の設計法について、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、6-2、2016.7
- ◆ 居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一・小口篤大：垂直軸型可変ピッチ翼水車の性能に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、6-1、2016.7
- ◆ 居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗・木原一禎・渋谷省吾：二重有孔ケーソンを利用した OWC 型波力発電装置の一次変換係数に関する水槽実験、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、6-3、2016.7
- ◆ 山本卓・居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一：垂直軸型風車がモノカラム浮体の動揺に与えるジャイロ効果に関する基礎的研究、日本建築学会大会 (九州) 学術講演梗概集、pp.13-14、10007、2016.8
- ◆ 李贊臻・惠藤浩朗・福岡哲司・居駒知樹・増田光一・山本卓：ブラジル北東部におけるジャッキアップ式拠点港の実現性に関する基礎的研究、日本建築学会大会 (九州) 学術講演梗概集、pp.15-16、10008、2016.8

- ◆ 惠藤浩朗・中島麻悠美・佐藤千昭・居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一：災害時医療支援浮体の実現可能性に関する基礎的研究 その1 波浪中応答特性に基づいた構造強度に関する検討、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.17-18、10009、2016.8
 - ◆ 中島麻悠美・惠藤浩朗・佐藤千昭・居駒知樹・増田光一：災害時医療支援浮体の実現可能性に関する基礎的研究 その2 波浪中応答特性に基づいた鉛直動揺に関する居住性能評価、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.19-20、10010、2016.8
 - ◆ 岸田智之・惠藤浩朗・佐藤千昭・居駒知樹・増田光一・久保田充：大型石炭貯蔵浮体の応答評価に関する基礎的研究 その2 石炭積載状態に応じた応力解析、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.51-52、10026、2016.8
 - ◆ 久保田充・惠藤浩朗・佐藤千昭・居駒知樹・増田光一・岸田智之：大型石炭貯蔵浮体の応答評価に関する基礎的研究 その3 石炭積載状態に応じた波浪中弾性応答解析、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.53-54、10027、2016.8
 - ◆ 石橋榮稔・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗：津波伝播シミュレーションを用いた津波避難施設の配置検討に関する基礎的研究、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.29-30、10015、2016.8
 - ◆ 宮下奈々恵・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗：清水港係留船舶における津波中被害特性に関する基礎的研究、日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集、pp.25-26、10013、2016.8
 - ◆ 金子大介・居駒知樹・増田光一・村田一城・石橋榮稔：港湾津波ハザードマップ開発のための岸壁係留船舶の漂流挙動に関する研究 その1 船舶規模に対する挙動特性について、日本船舶海洋工学会講演会論文集 第23号、2016A-OS3-1、pp.79-82、2016.11
 - ◆ 石橋榮稔・増田光一・居駒知樹・村田一城・石橋榮稔：港湾津波ハザードマップ開発のための岸壁係留船舶の漂流挙動に関する研究 その2 港湾津波ハザードマップの有用性について、日本船舶海洋工学会講演会論文集 第23号、2016A-OS3-2、pp.83-86、2016.11
 - ◆ 増田光弘・南清和・増田光一：浮体式津波対策用岸壁の最適設計に関する研究 - 浮体長さについての基礎的検討 -、日本船舶海洋工学会講演会論文集 第23号、2016A-OS3-3、pp.87-88、2016.11
 - ◆ 村田一城・増田光一・居駒知樹：MPS法による津波漂流物の衝突荷重シミュレーションに関する基礎的研究、日本船舶海洋工学会講演会論文集 第23号、2016A-OS3-5、pp.91-96、2016.11
 - ◆ 村田一城・増田光一・居駒知樹：粒子法による陸上遡上した大型船舶の津波漂流挙動特性に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学会講演会論文集 第23号、2016A-OS3-6、pp.97-100、2016.11
 - ◆ 小口篤大・居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一：垂直軸型可変ピッチ翼水車の性能に関する研究 - モデル水車のネット性能について -、日本船舶海洋工学会講演会論文集、第23号、2016A-GS10-3、pp.301-306、2016.11
 - ◆ 増田光弘・南清和・増田光一：浮体式津波対策用岸壁の津波防災・減災性能解析に対するMPS法の適用性に関する基礎的研究、第26回海洋工学シンポジウム、OES26-072、2017.3
 - ◆ 宮下奈々恵・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・村田一城：陸上遡上津波の沿岸建築物に作用する津波波力に関する基礎的研究、第26回海洋工学シンポジウム、OES26-087、2017.3
 - ◆ 松岡晃弘・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・村田一城：MPS法における船舶の津波中の挙動および衝突力に関する基礎的研究 その1 船舶の岸壁乗り上げ性状と建築物からの津波の反射流による漂流速度変化に関する検討、第26回海洋工学シンポジウム、OES26-088、2017.3
 - ◆ 村田一城・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗：MPS法における船舶の津波中の挙動および衝突力に関する基礎的研究 その2 建築物からの津波反射流の影響を考慮した衝突力特性、第26回海洋工学シンポジウム、OES26-089、2017.3
 - ◆ 石橋榮稔・増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・村田一城・金子大介：港湾事業継続計画のための港湾津波ハザードマップ開発に関する基礎的研究、第26回海洋工学シンポジウム、OES26-076、2017.3
 - ◆ 村井基彦・居駒知樹・今井康貴・平林紳一郎・安澤幸隆：海洋再生可能エネルギーの水槽実験の動向調査報告、OES26-055、2017.3
 - ◆ 居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一・木原一頼・渋谷省吾：二重消波ケーソンを利用したOWC型波力発電装置の一次変換特性に関する研究 - 一次変換特性における波高の影響 -、第26回海洋工学シンポジウム、OES26-075、2017.3
 - ◆ 渡邊由香・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗：潮流発電ファームを想定した流場解析法に関する研究、第26回海洋工学シンポジウム、OES26-070、2017.3
 - ◆ 居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一・小口篤大：浮体式垂直軸型可変ピッチ翼水車の性能に関する実海域曳航実験と水槽実験、第26回海洋工学シンポジウム、OES26-077、2017.3
 - ◆ 村井基彦・居駒知樹・今井康貴・平林紳一郎・安澤幸隆：海洋再生可能エネルギーの水槽実験の動向調査報告、第26回海洋工学シンポジウム、OES26-055、2017.3
 - ◆ Li Yanzhen, Hiroaki Eto, Tomoki Ikoma and Koichi Masuda, "Fundamental Study on Stability of Jack-up Base Port in the Northeast of Brazil," The 25th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2017.3
 - ◆ Masatoshi Ishibashi, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, Hiroaki Eto, "A Study on the Damage of a Drifting Ship Caused by a Tsunami after the Implementaion of The Shimizu Port Harbor Renovation Plan," The 25th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2017.3
 - ◆ Nanae Miyasita, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma and Hiroaki Eto, "An Experimental Study on Flow Characteristics of Tumami Running Between Buildings," The 25th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2017.3
 - ◆ Hiroaki Eto, Tomoki Ikoma, Koichi Masuda, Tomoyuki Kishida, Mituru Kubota, Chiaki Sato, "A Basic Study on Static Deformation and Local Stress of LFTS," The 25th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2017.3
 - ◆ Kazushi Murata, Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, Masaharu Ikegami, Masato Ohno, "A Fundamental Study on the Drifting Countermeasure of Work Barge by Mooring System in Tsunami," The 25th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2017.3
 - ◆ Tomoki Ikoma, Koichi Masuda, Hiroaki Eto, Yusuke Sugiyama, "Numerical Predictions with MPS Methods of Sinusoidal Wave Loads on a Vertical Cylinder fixed on a Sea-bottom," The 25th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2017.3
 - ◆ Tomoki Ikoma, Koichi Masuda, Kazuyoshi Kihara, Hiroaki Eto, Shogo Shibuya, "Validation of a Concept of an OWC Type WEC Installed on Wave Dissipating Double-Caissons with Tank Tests," The 25th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2017.3
 - ◆ Daisuke Kaneko, Tomoki Ikoma, Koichi Masuda, Hiroaki Eto, "A Study on Applicability of the Numerical Simulation Using the Distinct Element Method," The 25th Pacific Congress on Marine Science and Technology, (PACON), 2017.3
- 学外活動（講演・講師等） —————
- ◆ 居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一：韓国・釜山、国際会議 OMAE 2017 にて発表、司会、トピックオーガナイザーとして参加、2016.6.19-24
 - ◆ 居駒知樹：カナダ（バンクーバー、ウイスラー、ヴィクトリア）の水上飛行機および運行に関する現地視察とヒアリング調査、2016.8.27-9.2
 - ◆ 居駒知樹・増田光一：UAE・ドバイの海岸地域利用の利用実態視察およびヒアリング調査、2016.9.21-25
 - ◆ 居駒知樹：ポルトガル・リスボン、国際会議 RENEW 2016 での発表、司会、Scientific Committee Member として参加、2016.10.23-28
 - ◆ 居駒知樹：インド・マンガロール、National Institute of Technology Karnataka (NITK) にて大学院講義「A short-term course on "Offshore Renewable Energy (Wave, Wind and Tidal Energy)"」(14 回、7th to 11th of Nov.)、Global Initiative of Academic Networks (GIAN) Programme、2016.11.5-13
 - ◆ 居駒知樹・増田光一：オーストラリア・ケアンズの上リゾート、浮体構造

**教員研究業績
研究室活動業績**

物視察、2017.1.20-23

- ◆居駒知樹・惠藤浩朗・増田光一：中国・舟山、国際会議 PACON 2017 にて発表、司会、セッションコーディネータとして参加、2016.3.26-30
- ◆居駒知樹：「海洋建築」沿岸・海洋空間の利用・開発編お建築（工）学の参画、日本海事協会（ClassNK）講習会にて講演、2016.5.20
- ◆居駒知樹：粟島における浮体式水車曳航実験、新潟県海洋エネルギー研究会にて講演、2016.11.25

————— 学外活動（学会名または組織名・委員会名） —————

【教授 居駒知樹】

- ◆東京大学生産技術研究所 研究員
- ◆東京大学大学院新領域創成科学研究科海洋技術環境専攻 非常勤講師
- ◆一般社団法人海洋エネルギー資源利用推進機構 理事（学術担当）
- ◆日本建築学会海洋建築委員会 本委員会委員・幹事
- ◆日本建築学会海洋建築委員会 海洋建築企画小委員会 委員
- ◆日本建築学会海洋建築委員会 海洋建築計画小委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会 海洋工学研究会委員・幹事
- ◆日本船舶海洋工学会 海洋環境研究会委員
- ◆日本船舶海洋工学会 海洋再生エネルギー水槽実験方法検討委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会 海洋教育推進委員会 運営委員
- ◆日本沿岸域学会 企画運営委員会 委員
- ◆土木学会会員
- ◆海洋工学懇談会 幹事
- ◆第26回海洋工学シンポジウム（日本海洋工学会・日本船舶海洋工学会）実行委員
- ◆RENEW 2016 International Scientific Committee Member
- ◆OMAE 2016 Topic Co-organizer
- ◆OMAE 2017 Symposium Co-organizer
- ◆Techno-Ocean 2016 実行委員、Technical Program Committee Co-Chairs
- ◆Oceans and Techno-Ocean 2018 実行委員、Technical Program Committee Co-Chairs
- ◆Grand Renewable Energy 2018 分科会8（海洋エネルギー）Co-Readers

【准教授 惠藤浩朗】

- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築企画小委員会（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築計画小委員会（幹事）
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会・構造部会（委員）
- ◆日本船舶海洋工学会・東部支部編集委員会（委員）
- ◆日本海洋工学会・海洋工学シンポジウム（実行委員）
- ◆私立大学キャンパスシステム研究会・第一分科会（運営委員長）
- ◆私立大学キャンパスシステム研究会・メディアコミュニケーション局（運営委員長）

【特任教授 増田光一】

- ◆日本建築学会・海洋建築委員会本委員会（幹事）

- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築企画小委員会（委員）
- ◆日本海洋工学会（理事）
- ◆日本海洋工学会（運営委員）
- ◆日本船舶海洋工学会・日本海洋工学会・第25回海洋工学シンポジウム（実行委員長）
- ◆テクノオシアンネットワーク（理事）
- ◆PACON International (Bord of Director)
- ◆海洋工学懇談会（幹事）
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会（幹事）
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会（メンバー）
- ◆海洋エネルギー資源利用推進機構・波浪エネルギー分科会（委員）
- ◆東京大学生産技術研究所（研究員）
- ◆海流エネルギー活用推進機構（理事長）

————— 海外出張・海外調査 —————

- ◆居駒知樹：OMAE 2017 講演、韓国、2016.6.19-24
- ◆居駒知樹：水上飛行機現地視察・調査、カナダ、2016.8.27-9.2
- ◆居駒知樹：海岸地域利用実態視察、UAE、2016.9.21-25
- ◆居駒知樹：RENEW 2016 講演、ポルトガル、2016.10.23-28
- ◆居駒知樹：NITK にて大学院講義、インド、2016.11.5-13
- ◆居駒知樹：浮体構造物視察、オーストラリア、2017.1.20-23
- ◆居駒知樹：PACON 2017 講演、中国、2016.3.26-30
- ◆惠藤浩朗：OMAE 2017 講演、韓国、2016.6.19-24
- ◆惠藤浩朗：PACON 2017 講演、中国、2016.3.26-30
- ◆増田光一：OMAE 2017 講演、韓国、2016.6.19-24
- ◆居駒知樹：海岸地域利用実態視察、UAE、2016.9.21-25
- ◆増田光一：PACON 2017 講演、中国、2016.3.26-30

————— 研究助成・受託研究 —————

- ◆居駒知樹：JSPS 科学研究費補助金 基盤研究（B）、「ピッチ制御機構を有する浮体式垂直軸型水車の耐海水・生物附着性能を考慮した実証研究」、(H26-H28 年度)
- ◆居駒知樹：JST マッチングプランナー「探索試験」分担金（大阪府立大学）、「浮体式垂直軸風車の「強風時の過回転防止」、「すりこぎ運動を抑制」する革新的「フレキシブルガイドベーン付きマルチ垂直軸風車搭載のセミサブ型風車」の研究開発」、(H27-H28)
- ◆居駒知樹・増田光一：港湾空港総合技術センター研究助成金（研究奨励寄付金扱い）
- ◆居駒知樹・増田光一：港湾空港総合技術センター（研究奨励寄付金）
- ◆居駒知樹：三菱重工メカトロニクス（受託研究費）
- ◆居駒知樹：エム・エム・ブリッジ（受託研究費）
- ◆居駒知樹：サンユウシビルエンジニアリング（受託研究費）
- ◆居駒知樹（・大塚文和・野志保仁）：三井共同建設コンサルタント（受託研究費）
- ◆増田光一：JSPS 科学研究費補助金 基盤研究（C）、「津波による漂流物が建築物に与える衝撃荷重特性と被災規模の定量的評価」、(H28-H30 年度)

大塚研究室

審査付論文

- ◆大塚文和・弘中真央・川西利昌・増田光一：東京湾におけるアサリ浮遊幼生の鉛直移動を考慮した浮遊シミュレーションについて、土木学会論文集 B3(海洋開発)、72巻、2016年6月
- ◆Fumikazu Otsuka, Mao Hironaka, Toshimasa Kawanishi, Koichi Masuda : A STUDY ON VERTICAL MOVEMENT MODEL FOR PLANKTONIC LARVAE OF MANILA CLAM IN TOKYO BAY, Proceedings of the 34th International Conference on Ocean Offshore and Arctic Engineering (OMAE2016), 2016.6.
- ◆Fumikazu Otsuka, Mao Hironaka, Toshimasa Kawanishi, Koichi Masuda : A Numerical model on Vertical Movement of Planktonic Larvae of Clam Ruditapes Philippinarum in Tkyo Bay, Proceeding of the 12th ISOPE Pacific/Asia Offshore Mechanics (ISOPE PACOMS2016), 2016.10.
- ◆大塚文和・川西利昌・増田光一：江戸川を通じて東京湾に流入する放射性物質質量及び河口域堆積量の推定、土木学会論文集 B2 (海岸工学)、63巻、2016年11月

口頭発表・ポスター発表

- ◆大塚文和・橋本宗待・川西利昌：荒川を通じて東京湾に流入する放射性物質質量の推定について、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、14-2、2016.7

- ◆大塚文和・川西利昌：東京湾におけるアサリ幼生の沖合海域における着底状況の試算について、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、3-4、2016.7
- ◆中本壮祐・大塚文和・川西利昌：東京湾・親水海浜における放射性物質の拡散に関する研究、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.704-705、2016.12
- ◆橋本宗待・大塚文和・川西利昌：葛西臨海公園西なぎさ海浜における放射線量について、第 60 回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.702-703、2016.12

学外活動(学会名または組織名・委員会名)

- ◆日本沿岸域学会・論文委員会(委員)
- ◆海洋調査技術学会・企画委員会(委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会海洋建築計画小委員会(委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築用語事典改訂準備 WG(委員)

研究助成・受託研究

- ◆科学研究費助成基金助成金、研究課題「東京湾奥部における放射性物質の実態およびその長期的予測に関する研究」(基盤研究 C)

岡本研究室

審査付論文

- ◆岡本強一・遠山岳史：OCEAN DECONTAMINATION: REMOVAL EFFICIENCY OF RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE BY USING MICRO BUBBLES AND ACTIVATING MICROORGANISMS, International Journal of GEOMATE (Geotechnique Construction Materials & Environment, May, 2016, Vol.10, Issue21, pp.1924-1928
- ◆岡本強一・遠山岳史・小森谷友絵：OCEAN DECONTAMINATION: HIGH ABILITY REMOVAL METHOD TO RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE BY USING MICRO BUBBLES AND ACTIVATING MICROORGANISMS, International Journal of GEOMATE (Geotechnique Construction Materials & Environment), April, 2017, Vol.12, Issue 32, pp. 57-62.
- ◆小森谷友絵・岡本強一・遠山岳史：EFFECT OF ADDITION OF BACTERIA ON THE REMOVAL OF RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE IN A CIRCULATION TYPE PURIFICATION SYSTEM, International Journal of GEOMATE (Geotechnique Construction Materials & Environment), April, 2017, Vol.12, Issue 32, pp. 120-125.
- ◆岡本強一・遠山岳史・小森谷友絵：CHARACTERISTICS OF THE SLUDGE PARTICLES IN REMOVAL PROCESS OF RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE BY DECOMPOSITION SYSTEM WITH CIRCULATION TYPE USING MICRO BUBBLES AND ACTIVATING MICROORGANISMS, International Journal of GEOMATE, June, 2017, Vol.12 (Issue34), pp. 51-56.
- ◆Hirosuke Hirano, Takeshi Toyama, Nobuyuki Nishimiya, Davin H. E. Setiamarga, Shugo Morita1, Yuto Uragaki1 and Kyoichi Okamoto, ARTIFICIAL SLUDGE BASED ON COMPOSITIONAL INFORMATION OF A NATURAL SEA SLUDGE, International Journal of GEOMATE (Geotechnique Construction Materials & Environment), March, 2017, Vol.12 (Issue31), pp. 95-99
- ◆岡本強一・遠山岳史・小森谷友絵：Development of High Ability Removal Method to Radioactive Cesium Adsorbed on Ocean Sludge by using Micro Bubbles and Activating Microorganisms, Proceedings of Techno-Ocean 2016, pp.360-365

- ◆岡本強一・遠山岳史・小森谷友絵：OCEAN DECONTAMINATION: HIGH ABILITY REMOVAL METHOD TO RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE BY USING MICRO BUBBLES AND ACTIVATING MICROORGANISMS, Sixth International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment, Bangkok, Thailand, pp.584-589, Nov. 14-16, 2016
- ◆小森谷友絵・岡本強一・遠山岳史：EFFECT OF ADDITION OF BACTERIA ON THE REMOVAL OF RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE IN A CIRCULATION TYPE PURIFICATION SYSTEM, Sixth International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment, Bangkok, Thailand, pp. 590-595, Nov. 14-16, 2016
- ◆岡本強一・遠山岳史・小森谷友絵：CHARACTERISTICS OF THE SLUDGE PARTICLES IN REMOVAL PROCESS OF RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE BY DECOMPOSITION SYSTEM WITH CIRCULATION TYPE USING MICRO BUBBLES AND ACTIVATING MICROORGANISMS, Second International Conference on Science, Engineering & Environment, Osaka City, Japan, pp.830-835, Nov.21-23, 2016
- ◆Hirosuke Hirano, Takeshi Toyama, Nobuyuki Nishimiya, Davin H. E. Setiamarga, Shugo Morita1, Yuto Uragaki1 and Kyoichi Okamoto, ARTIFICIAL SLUDGE BASED ON COMPOSITIONAL INFORMATION OF A NATURAL SEA SLUDGE, Sixth International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment, Bangkok, Thailand, pp.517-521, Nov. 14-16, 2016

口頭発表・ポスター発表

- ◆岡本強一・遠山岳史：海の除染：マイクロバブルと微生物活性を利用した海底堆積汚泥からの放射性セシウムの高効率除去法、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、pp.247-249
- ◆岡本強一・藤野正俊・北澤大輔：炭電極を用いた電気分解による水質浄化実験 - 交番電圧を用いた回路を組み入れた場合 -、第 19 回日本水環境学会シンポジウム、pp.121-122、2016.9.13
- ◆橋口聡・柳下侑輝・岡本強一：ナノバブルの親和性を利用した循環型浄化システムによる堆積汚泥に対する浄化性能、第 60 回日本大学理工学部学術講

教員研究業績 研究室活動業績

演会予稿集、海洋建築系部会、pp.728-729、2016.12

- ◆野川大輔・岡本強一：循環型浄化システムと凝集剤を用いた堆積汚泥からの放射性セシウムの除去、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.726-727、2016.12
- ◆大下麟太郎・小森谷友絵・岡本強一：循環型浄化システムを用いた微生物直接投入による水質浄化-浄化過程における微生物量の変化-、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.730-731、2016.12
- ◆柳下侑輝・岡本強一：2海域の堆積汚泥に対する循環型浄化システムの浄化性能比較、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.732-733、2016.12

受賞

- ◆岡本強一：第6回地盤工学・建材及び環境に関する国際会議（International

Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment、2016年11月14日から16日まで、タイ・バンコクで開催にて、**最優秀論文賞（Best Paper Award）**を受賞

学外活動（学会名または組織名・委員会名）

- ◆(株)日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会（委員）
- ◆NPO 海の森づくり推進協会（理事）
- ◆東京大学・生産技術研究所（協力研究員）

研究助成・受託研究

- ◆岡本強一：科学技術研究費、基盤研究（C）、「海の除染：マイクロバブルと微生物を利用した海底堆積汚泥からの放射性セシウムの除去」

小林・野志研究室

審査付論文

- ◆小林昭男・宇多高明・野志保仁・吉野貴之（2016）：礫と砂の含有率が異なる海浜の波浪応答に関する実験的研究、土木学会論文集B2（海岸工学）、72巻No.2、pp. L655-L660
- ◆橋本佳樹・小林昭男・宇多高明・野志保仁（2016）：砂浜干潟併存場において前浜と干潟面を分ける遷急線と汀線の斜交現象、土木学会論文集B2（海岸工学）、72巻、No.2、pp. L559-L564
- ◆宇多高明・小林昭男・伊達文美・三上康光・芹澤真澄（2016）：VietnamのVan Phong Bay内のBip Island周辺における陸繋砂州の発達、土木学会論文集B3（海洋開発）、72巻、No.2、pp. L85-L90
- ◆Yasumitsu MIKAMI, Akio KOBAYASHI, Takaaki UDA and Yasuhito NOSHI: LONG-TERM SHORELINE CHANGES ON MARGINAL COAST OF TIDAL FLAT IN TOKYO BAY AND RAPID DEFORMATION OF SAND BARS DUE TO TSUNAMI, Proceedings of 34rd International Conference on Coastal Engineering (in press).
- ◆Kobayashi, Akio, Takaaki Uda and Yasuhito Noshi: MONITORING OF GRAVEL NOURISHMENT ON MAKUHARI BEACH IN TOKYO BAY, Proceedings of 34rd International Conference on Coastal Engineering (in press).

口頭発表・ポスター発表

- ◆小林昭男・宇多高明・野志保仁：Vietnam Nha Trang 北部の海岸の人工化と Cai River 河口部の侵食、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、5-3、2016.7
- ◆三上康光・小林昭男・宇多高明・野志保仁：盤洲干潟縁辺部における砂嘴の発達と侵食による粘性土層の出現、日本沿岸域学会研究討論会 2016 講演概要集 No.29、5-4、2016.7
- ◆橋本佳樹・小林昭男・宇多高明・野志保仁：石灰灰造粒物の養浜材料への検討に関する研究、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.610-611、2016.12
- ◆三上康光・小林昭男・野志保仁・宇多高明：盤洲干潟における地形変化と植生分布について、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.612-613、2016.12
- ◆西村亜子・小林昭男・宇多高明・野志保仁：人工干潟の地形安定化による生物生息空間の創出、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.718-719、2016.12
- ◆西村和真・小林昭男・宇多高明・野志保仁：見物海岸の埋立による越波被害増大に関する研究、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.714-715、2016.12
- ◆宮田隆平・小林昭男・宇多高明・野志保仁：緩傾斜堤の機能回復を目的とした礫養浜に関する研究—千葉県検見川浜を例にして—：海岸砂丘形成の再現モデルについて、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.708-709、2016.12
- ◆村田昌樹・小林昭男・宇多高明・野志保仁：非完全遮蔽の突堤設置時にお

る数値計算による海浜変形予測：海岸砂丘形成の再現モデルについて、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.710-711、2016.12

- ◆横田拓也・小林昭男・宇多高明・野志保仁：セルオートマトン法を用いた飛砂の堆積予測モデルに関する研究：海岸砂丘形成の再現モデルについて、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.712-713、2016.12
- ◆和田夏海・小林昭男・宇多高明・野志保仁：波左間海岸によける海岸土地利用による環境変化に関する研究：海岸砂丘形成の再現モデルについて、第60回日本大学理工学部学術講演会予稿集、海洋建築系部会、pp.716-717、2016.12

著書

- ◆沿岸域総合管理入門：2章 2.3.1 沿岸域利用の基本となる海岸の保全と防災、東海大学出版会、pp. 86-102

社会活動

- ◆小林昭男：神奈川県港湾審議会（委員）
- ◆小林昭男：市原市建築審査会（委員）

学外活動（学会名または組織名・委員会名）

- ◆小林昭男：日本沿岸域学会（理事）
- ◆小林昭男：日本海洋工学会（理事・運営委員会委員）
- ◆小林昭男：土木学会海洋開発論文集査読小委員会（委員）
- ◆小林昭男：日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）
- ◆野志保仁：土木学会海洋開発委員会（幹事）

海外出張・海外調査

- ◆小林昭男：日韓デザインワークショップ 2016、韓国・プサン、2016年8月19日～8月23日
- ◆小林昭男：ドバイ・アブダビにおける人工島を用いた海洋空間利用の視察、アラブ首長国連邦・ドバイ・アブダビ、2016年9月21～9月25日
- ◆小林昭男・野志保仁・橋本佳樹：ベトナム天然資源環境大学およびベトナム海洋研究所との学術交流と現地踏査、ベトナム・ホーチミン・ニャチャン、2016年10月21日～10月28日
- ◆小林昭男：ミャンマーにおける浮体構造物の利用の現状に関する調査およびミャンマー海軍大学との学術交流：ミャンマー・ヤンゴン、2016年11月28日～12月2日、
- ◆小林昭男：韓国における浮体構造物および水辺環境の利用に関する調査、韓国ソウル市及び釜山市、2017年2月12日～2月14日

研究助成・受託研究

- ◆野志保仁：等深線変化モデルの開発（受託研究）
- ◆小林昭男：ダム堆砂の養浜材としての活用法調査（研究奨励）

平成
28
年度

卒業生の就職状況

就職指導委員 福井剛

1. 全体状況

本年度（2017年2月28日現在）の就職内定率は学部、大学院ともに100%となりました。オリンピック後景気に対する不透明さから採用枠減予測の報道も一部見られましたが引き続き好調です（表1）。背後には建設業界の慢性的な人手不足があり、今後もしばらくはこの傾向が続くような雰囲気です。就職活動にあたっては、学科が積極的なサポートと企業の紹介を行い、一人でも多く希望する企業への就職内定を勝ち取るよう働きかけています。

2. 業種別就職状況

本学科における就職先は、建設業（ゼネコン）が最も多く59名（53.6%）を占めているほか、設計事務所・コンサルタント17名（15.5%）、住宅・不動産6名（5.5%）であり、全体の74.6%を占めています。また、これらのなかで、海洋・コンサルタント業8名（7.3%）への就職先がみられるのも本学科の特徴です。主要な内定先企業（表2）をみると、いずれも業界屈指の大手企業から一定数の内定が得られていることが分かります。

3. 次年度の就職活動に向けて

就活の解禁は3月1日です。企業へのエントリーはこの日より受付が始まります。これと並行して、一部の会社は早期人材確保に向けた動きをしています。大手組織設計事務所や大手ゼネコンはこの傾向が強いため注意が必要です。右に年間スケジュールの一例を示します。

早期に採用活動をする企業は、夏期のインターンシップまでは一般的な企業と変わりませんが、1月以降の冬期インターンシップや現場見学会においてリクルーターによる面談が行われて学生の選別が進められます。実質的な面接と言えます。3月の企業説明会解禁と同時に実質的な採用面接である企業内面談が行われ、SPI試験の結果を踏まえて早々に内々定を出します。採用選考解禁となる6月には役員面接を行い正式内定となります。

一般的な企業は少しスケジュールが遅れますが、1月のインターンシップに参加するためには、12月中には就職の方向性（職種、企業規模等）を決めておく必要があります。

各社のスケジュールが重複するためそれほど多くのインターンシップに参加できないためです。インターンシップは就活の必須条件ではありませんが、学生は企業と仕事内容を知る、企業は学生と巡り会う機会として双方のメリットがあるので今後も活発に行われると考えられます。

皆さんはこの4月から、学部や学科が主催する就職セミナーに積極的に参加し、企業と職種、自分の適性についての認識をしっかりと持ってください。夏期インターンシップは気になる業種の最低1つには参加しましょう。意識も大きく変わるはずで、夏休みの過ごし方は重要で、SPI対策、専門試験対策、企業研究、履歴書作成などやるべきことは盛りだくさんです。夏休み前にもセミナーを開催するので必ず参加して下さい。冒頭では採用の堅調さを述べましたが、採用に至るまでのハードルは決して低くはなっていません。企業は仮に目標採用数に満たなくとも能力の高い学生だけを採る傾向が強まっています。

学科の就職指導は私のほか山本先生と学科事務の岡崎さんが担当します。図書館1階のキャリア支援センターでは履歴書作成指導や模擬面接を受けることができます。有効に活用して下さい。就職セミナー、インターンシップ、企業説明会、求人に関する情報はmoodleにアップされるのでこまめにチェックするようにしてください。

	【一般的な企業】	【早期に活動する企業例】
4月		
5月		
6月	夏期インターンシップエントリー	夏期インターンシップエントリー
7月		
8月	夏期インターンシップ	夏期インターンシップ
9月	夏期インターンシップ	夏期インターンシップ
10月		
11月		
12月		
1月	冬期インターンシップ	リクルーター面談
2月	冬期インターンシップ	リクルーター面談
3月	企業説明会解禁 エントリー開始	企業面談・SPI
4月	SPI	内々定
5月	SPI	
6月	採用選考解禁	内定
7月	内定	

表1 就職・進学状況(学部・大学院)

	学部			大学院			学部・院 合計	学部・院合計	
	男子	女子	男女合計	男子	女子	男女合計		27年度	26年度
合計(人)	117	15	132	16	3	19	151	137	151
就職希望者(人)	83	9	92	16	2	18	110	104	124
内定	83	9	92	16	2	18	110	101	119
未定	0	0	0	0	0	0	0	3	5
内定率(%)	100	100	100	100	100	100	100	97.1	96
大学院進学(人)	32	3	35	0	0	0	35	30	22
本学	29	3	32	0	0	0	32	29	20
他大学	3	0	3	0	0	0	3	1	0
その他(人)	2	3	5	0	1	1	6	3	5
研究生	0	1	1	0	1	1	2	0	0
留学(希望者含む)	0	0	0	0	0	0	0	1	0
専門学校	0	1	1	0	0	0	1	0	0
次年度公務員志望	0	0	0	0	0	0	0	1	2
就職の意思のない者	2	1	3	0	0	0	3	1	3

表2 主要内定企業一覧

業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院	
建設業	鹿島建設	1	-	海洋・ コンサル タント	日本港湾コンサルタント	2	-	
	大林組	1	1		東光コンサルタンツ	1	-	
	清水建設	1	-		日本構造橋梁研究所	1	-	
	大成建設	2	-		エコー	1	-	
	大和ハウス工業	4	2		サンユウシビルエンジニアリング	1	-	
	長谷工コーポレーション	1	-		三井造船	-	1	
	五洋建設	4	-	設計 事務所	日本設計	-	1	
	前田建設工業	1	-		久米設計	-	1	
	東急建設	1	-		NTT ファシリティーズ	1	-	
	フジタ	4	-		東電設計	1	-	
	東亜建設工業	1	-		類設計室	1	-	
	鉄建建設	1	-		構造計画プラスワン	1	-	
	東洋建設	3	-		RISE 構造設計事務所	1	-	
	青木あすなろ建設	3	-	その他	日本原子力発電	-	1	
	飛鳥建設	2	1		タカラスタンダード	1	-	
	住宅	ピーエス三菱	3	-	役所	国土交通省	2	-
		積水ハウス	1	-		水産庁	1	-
海洋・ コンサル タント	住友林業	1	-	千葉県庁		1	-	
	八千代エンジニアリング	-	1	佐倉市役所		1	-	
	三井共同コンサルタント	-	1					

海と建築

vol.
12

中 東ドバイは、現在、世界最高の高さを誇る超超高層ビル「ブルジュ・ハリファ」828.9mが建つ他、1,000m級の新たなビルの建設計画が着々と進められてきている。こうした近代的な超高層ビルの建つエリアは金融特区などを形成し、ドバイの中心的なビジネス街区となっている。こうした街区の足元には運河が張り巡らされており、運河は舟運よりも、都市景観や大気温を低減させる効果が期待されており、夕方になると巨大な噴水ショーが開催され観光客を魅了している。日中は50度にもなろうという砂漠の都市において、こうした運河はまさに砂漠のオアシスの役割を果たしている。

海 側に目を向けると、幾つもの島々が望めるが、これらはすべて人工的に作られた島であり、これらを開発している会社は政府系不動産会社「ナキール」社である。ドバイの海岸線は短く僅か72km程しかない。そのため、政府は短い海岸線を延長するために人工島を建設する計画を立て、それを具体化してきたのがナキール社である。

人工島の計画は「パーム・アイランド」と呼ばれるもので、ヤシの葉や世界地図を思われる特異な形態を見せる人工島が今後5つ建設される予定であり、現在は「パーム・ジュメイラ」が完成することで海岸線の総延長は120km程延長された。ちなみに、この島は2001年に建設を開始し、現在までに概ね80%程完成している。また、この住宅は販売開始から72時間で1,500軒が完売した。

パーム・ジュメイラは、市街地の西のジュメイラ地区の海岸地先に埋立により建設された人工島で、形は名前の通りヤシの木を模している。幹となる部分から枝は16本伸びている。こうした形態を取ることで海岸線延長を長くすることができ、今後建設予定の「パーム・ジュベル・アリ」や「パーム・ディラ」も同様な形態となる。また、現在埋立途中の「ザ・ワールド」は地球儀を模した形態で、世界の大陸が島々によって構成されることで、海岸線を延長することが意図されている。ドバイでは土地を生み出すことよりも海岸線を延長するための手段として人工島が作られており、将来的に海岸線延長距離は800kmになることが期待されている。



グランド・モスク



ブルーアイランドのプロムナード



ホテルアトランティス



ブルジュ・ハリファ



教員異動

- 就任：寺口敬秀 先生（4月より助手として新規採用）
- 昇格：助 手 菅原 遼 先生（4月より助教）
- 退任：教 授 登川幸生 先生（4月より特任教授）
- 退任：特任教授 近藤健雄 先生（4月より上席研究員）
- 退任：特任教授 浜原正行 先生（4月より上席研究員）

海建

カイケンマガジン No.104 発行者／桜井慎一 発行日／平成29年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部海洋建築工学科教室
Tel : 047-469-5420 (事務室) Fax : 047-467-9446

編集委員：恵藤浩朗、山本和清、野志保仁、菅原遼
<http://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>
デザイン制作 — QB System Co.,LTD.